

徳島 の剣道

徳島市中徳島町2丁目96番地
徳島県剣道連盟
〒770 電話(0886)52-2337

第 4 号

徳島県剣道連盟

鳴門 飛鳥
一本松

一、剣道の理念

剣道は

剣の理法の修練による

人間形成の道である

一、剣道修練の心構え

剣道を正しく真剣に学び

心身を錬磨して 旺盛なる気力を養い

剣道の特性を通じて 礼節をとうとび

信義を重んじ 誠を尽して 常に自己の修養に努め

以って 国家社会を愛して

広く人類の平和繁栄に寄与せんとするものである

以上

卷 頭 言

徳島県剣道連盟会長 堀 江 幸 夫

新春を迎え会員の皆様には、愈々ご健勝にてご精武のよしお歎び申し上げます。

昨年は新米船長のおほつかない手付きの舵取りで船出いたしました剣連丸でございましたが、お蔭様で会員皆様の温かいお力添えとご支援により少年・中学・高校をはじめ社会人にいたる各分野に亘り内容の充実と競技力の向上強化に著しい成果を挙げ、全国大会においても数々の輝かしい成績を収めまして無事初の航海を終えることができました。皆様に心より感謝の意を捧げお礼申し上げます。

ご承知のとおり昭和六十八年本県で開催の第四十八回国体も射程距離に入ってまいりました。中央競技団体の会場施設の視察も無事終わり、会場もほぼ本決まりの模様でございます。又この国体の少年の部の主役として活躍が期待される選手候補も、この四月に中学校に入学してまいります。県剣連では、この機を48国体に向けての競技力強化の第一歩目と位置づけ、第一歩を力強く踏み出したいと考えております。

この意義ある年に我々剣道同好の士にとって何よりもうれしいニュースがございます。それは今秋新しい県立武道館の竣工であります。この武道館は心身の修練の場としての最高の配慮と近代設備がなされており、本県剣道の新しい錬磨の本拠地として又国体の強化のメッカとして、大きな役割を果たしてくれるものと期待しております。

県剣連も打って一丸となり会員の総力を結集して、国体成功への努力と本県剣道界の一層の飛躍を期し、次の世代にこの先人が心血をそそぎ創り上げた尊い遺産剣道文化を、立派に引き継ぎたいと念願いたしております。

いよいよ二度目の航海の纜を解き「剣の理法の修練による人間形成」への彼岸に向かって船出いたします。この航海の平安と成功は会員の皆様のお力がなければ達成できません。何卒昨年同様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

目次

巻頭言	1
目次	1
48国体への強化	1
徳島の剣道（各パートからの報告）	10
全国大会に参加して	17
わが郷土の剣豪紹介（各支部より）	20
人物紹介（各支部より）	26
剣道随想	30
昭和62年度戦いの跡	32
昭和62年度昇段者名簿	42
昭和63年度剣道・居合道昇段審査学科試験問題・解答例	46
昭和63年度行事予定	68
昭和63年度職員一覧表	70
編集後記	72

△表紙▽

題字 堀江幸夫徳島県剣道連盟会長

絵 伊原秀文徳島県剣道連盟審議員

48国体への強化

九州遠征報告

一日時 昭和六十三年一月四日(月)～七日(木)
 二場所 佐賀県北茂安中学校(昭和六十二年中学校全国大会男子団体
 準優勝校)

三目的 宮崎県高千穂中学校(全国大会上位進出常連校)
 (1) 48国体を控え、全国大会ベスト8どまりの徳島県中学校
 剣道のレベルアップ。

(2) 全国一流の指導者から、剣道に対する熱意を徳島県指導
 者が学びとる。

四参加者 指導者 4名
 男子生徒 12名 合計 16名

☆ 指導者(4名)

◎ 総務 石井 博(附属中学校教諭)

◎ 監督 富田 正(宮浜中学校教諭)

◎ コーチ 榎本 英夫(上八万中学校教諭)

◎ マネージャー 中山 繁輝(徳島文理中学校教諭)

☆ 徳島県中学校剣道選抜選手(12名)

植木 淳(鴨島第一中学校)
 北川 忠司()
 坂本 晋(阿波中学校)
 中川 昇()
 松村 啓之(市場中学校)
 楠 正吾()

近藤 淳司(宮浜中学校)
 橋本 忠久()
 川西 文男(阿南第一中学校)
 山室 雅幹(藍住中学校)
 中野 威洋(木頭中学校)
 岡本 正博(鷺敷中学校)

五 練習試合の概要(詳しくは、後の資料参照)

◎ 試合結果(相手チームは、佐賀県・宮崎県の新人大会ベスト8)

徳島選抜A 6名(阿波2・市場2・鴨島1・2)

7勝 7敗 3分

徳島選抜B 6名(宮浜2・木頭1・鷺敷1・阿南1・藍住1)

11勝 4敗 2分

* 徳島選抜を地域を考え、AとBに分ける。剣道の力は、ほぼ互角。

対戦した相手チームは、A・Bとも同じ。

* 一日目最後に、佐賀県の強豪チームと徳島選抜A・B合併チームで

試合。

1勝 2敗

※ 2日間の練習試合総合成績

19勝 13敗 5分

勝率 5割9分4厘

◎ 個人表彰選手(引率した4名の指導者が相談して選考)

○ 健闘したで賞(レベルの高い九州の選手を相手にして勝率5割以上)

第1位	中野(木頭中)	9勝3敗4分	0・750		
2	北川(鴨島一中)	7	3	6	0・700
3	近藤(宮浜中)	9	5	3	0・643
4	山室(藍住中)	6	5	6	0・545
4	川西(阿南一中)	6	5	5	0・545
6	岡本(鷺敷中)	4	4	7	0・500

- リーダーシップ賞 植木(鴨島一中) チームをよくまとめた
- ハッスル賞 中川(阿波中) 気力あふれる試合
- バランス賞 橋本(宮浜中) バランスのとれた攻防
- 分けたで賞 坂本(阿波中) 粘り強い試合を続けた
- シャープ賞 松村(市場中) 鋭い切れ味
- フットワーク賞 楠(市場中) 見事な足さばき

六 北茂安中・高千穂中の共通した長所

* 引率した石井・富田・樫本・中山4名の感想

- (1) 小・中の連携がよくとれている。
 - 少年剣道が盛んで、小さいころから剣道になじんでいる。
 - 中学校の指導者も少年剣道の指導に行き、小さい時から一人ひとりをよく知っている。
 - 小学校の有望選手が、そのまま中学校に入学するので、小中一貫して指導している。
 - 保護者の熱心な援助
- (2) 遠征に行く場合には、車で付き添ったり、他から遠征に来た場合は、朝食・昼食を作ったり、保護者が直接援助活動をして、協力している。
- (3) 毎日の食事時など生活の中で、子供と剣道の話をし、北茂安中の保護者の言葉を借りれば、「剣道をおかずにして、食事をとる」ような状態で、時には励まし、時には叱り、家族全体が剣道を中心にして動いている。そして、保護者が子供の世話をするのを義務として感じているのでなく、楽しみながらやっているとところがある。最初からこんな状態であったのでなく、指導者が保護者を徐々に啓蒙していった成果だという話をお伺いした。

(3) 指導者がすぐれている

- 県外のレベルの高い学校や地域に遠征し、高い技術を持つ生徒と試合をさせ、生徒自らが学べる機会を数多く作る。

* 年間の大会参加は、県内外合わせて北茂安中40回・高千穂30回程度。(県外遠隔地への長期遠征及び大会参加は、年間4)

5回。あとは県内や近県の大会参加)

- 県外から遠征に来たチームがあれば、自分の県の強豪チームを呼んで遠征チームの便宜をはかるとともに、自分のチームもあわせて練習させる。
- 指導者が非常によく世話し熱心に動くので、生徒もその影響を受け一生懸命努力している。
- 学校での指導者との社会体育としての道場の指導者とは、連携をとって練習量や試合等、微妙な調整をうまくしている。

(4) 実戦経験が豊富

- (3)のなかでもとりあげたが、とにかく小学校の段階(だいたい3年から4年ぐらいから)で、試合を多くしている。
- 地域的に北茂安・高千穂とも小学校の剣道が盛んで、大会が多く、1日に3ないし4つの大会が同時に近くで行われることもある。そんな時は、チームを3つないし4つに分け、全部の大会に選手をふりわけて参加している。
- 大会への参加が多く、十分な実践練習ができる。また、普段の練習においては、練習時間の50%~70%を基本練習にさいている。

七 参加した12名の生徒がみた九州剣道の長所

- 勝負への執念・気迫
- 試合のかけひきのうまさ(団体戦でチームの流れをうまく読んでいる)
- どんなタイプの相手にも柔軟に対応できる
- 打つ機会をとらえるのがうまい
- 1本1本の打ちが力強い(基本がしっかりしている)
- 足さばき(フットワーク)が良い

八 48国体の徳島県剣道(中・高校)これからの具体的な強化対策案

(1) 指導者の資質の向上

- 中・高校の剣道部指導者を対象とした講習会・研修会の実施。
- 理にかなった練習方法・技術指導のポイントなど、指導方法のマニュアルの作成・配布。
- 県外のレベルの高い学校へ直接行って、指導者としての勉強をする。

(2) 中・高校の連携をはかる。

○ 中学校の強化練習・合宿、あるいは試合に、高校の指導者が参加し
中学校の生徒の現状を知る。

○ 中・高校の指導者が、連絡を密にし、生徒に対する一貫した指導を
心掛ける。

(3) 保護者の理解・協力を得る努力をする。

○ 生徒の力量が身につく過程で、生徒自身さまざまな壁につき
あたる。多感な時間である中・高校期に保護者の精神的なバックアッ
プは、欠かすことができない。

○ 遠征・練習試合等遠距離を動くときに、経済的な負担についての理
解を得る。

(4) 6年間の長期選手育成計画を立てる。

○ 基礎・基本を大切にし、目先の勝負にこだわりすぎて、小さく固まっ
てしまわないように気をつける。

○ 一人ひとりの個人カルテを作成し、成長の記録を指導者が十分把握
しておく。

○ 48国体時に高校3年生になる今の小学校6年生の実態について、十
二分に調査しておく。

(5) 学校・教育委員会・県剣道連盟との連携について、それぞれに積極的
に働きかける。

○ 高校の指定校、あるいは中学校の重点強化校に熱心な剣道指導者の
適正配置をお願いする。(現在は、素質のある好選手がいる学校に、
その選手の力を伸ばせる指導者がいない所がある)

○ 強化にかかわる諸々の方策に十分な経済的援助をお願いする。

○ 講習会等に連盟から講師の先生を派遣していただく。

* 北茂安・高千穂中学校ともに毎年良い成績をあげている。全国大
会において単発的に活躍するというのではなく、毎年活躍するという
のは、大変なことだと感じる。

その強さの秘密は、なんといっても地域をあげての協力体制がで
きあがっているところにある。剣道に関わる大きなしっかりとした

組織が動いている。その組織作りの過程を調べてみると、むずかしい
組織作りの中心となって動いていた指導者がいた。あれだけ一生
懸命先生がやっているんだから、何とかしようという動きができて
、それが徐々に広がっていった。大きな組織となっている。教育
は人なり」という言葉があるが、つきつめていくと、指導者の資質
の問題が、選手強化のためには、一番大きな影響をおよぼしている
ように感じた。

(文責 石井博)

九州遠征についての感想

木頭中学校 中野 威 洋

僕は先生から「九州遠征に参加しないか」ときそいがあったとき、今まで
剣道をやってきて本当によかったと思いました。いつも剣を交えている生徒
と九州へいくことは、とても信じられない気がし、また、不安でもありまし
た。しかしこんな機会はめったにないので、この一月に三泊四日の遠征にい
かせてもらうことにしました。

僕は、九州の生徒と剣を交える前にびっくりしたことがありました。それ
は地域の人々がとても親切にしてくれたことでした。特に北茂安中学校へい
た時は驚くほどの歓迎で僕は目のやり場がないほどでした。

剣道の遠征先は佐賀県と宮崎県の二県だけでしたが、両県とも僕が予想し
ていた以上に全国的にもレベルの高い九州の剣道をおもしろさされた感じ
でした。

その中でも特にぬきんでていた中学校といえは、佐賀の北茂安中学校と宮
崎の高千穂中学校だと思いました。自分が試合をして一番印象に残った学校
です。北茂安中には正直いって完敗でした。今の段階ではこのチームに勝つ
ことは難しいと思いました。かといってそれであきらめてしまわなければあ
りません。相手のチームが強ければ強いほど僕には闘志がわいてくるのです。

次に試合であらう機会があれば、今度は必ず勝ってやろうと決心しました。そしてこのチームの良いところを全部持って帰ってやろうとそれだけ思い必死になって北茂安中の試合を観ました。あの腰の入った打突や、まったく相手を恐れず、自分の剣道を堂々とやっている姿を見るとあらためてもっともっと練習しなくてはと思い、自分の心にあせりが出てきたのを感じずにはいられませんでした。

試合を観ながら頭の中で整理してみると、北茂安中の生徒と自分には大きな違いが二つあることに気づきました。そのひとつは、下半身が人並み以上にしっかりしていること、もうひとつは、誰にも負けないという強い精神を持っていることです。僕の場合、いつもせり合いの時には、手が先に出てしまい、腰が後からついてくる恰好になり強い打ちができません。これは、自分がまずなおしていかなければならないことのひとつでもあります。精神面では、試合の時あせる気持ちが先にたち、体が浮いた状態で打突してしまったり、相手に気持ちでおされ、平常心を失ってしまったりすることが多いのです。しかし北茂安中の試合を観ていると、そんなところがまったく見あたりませんでした。

それでは北茂安中はどうのようにして鍛えられているのかというところ、練習時間の半分以上を基本練習にとり、年に四十回ぐらゐの試合をこなしているということでした。これには驚きました。試合数は僕達の倍もしていることになり、これを聞いて僕は納得しました。基本練習をそれだけやれば、足腰も強くなるはずで、年に四十回もの試合や四〜五回の長期遠征に参加し、実戦練習を充分すぎるほどこなしているからあのような強い精神がつけられるのです。

それでは僕は彼らに迫いつくためにどんなことをすればいいのか。僕のいる環境を含めいろいろと考えてみましたが、やはり毎日の練習を人一倍、一生懸命取り組むことだと思えます。そして自分のやれる範囲での自主練習など、自分をもっと鍛えなければならぬし、またそのために努力を怠ってはならないとも思いました。僕はそんなことを何度も強く心にくり返しながら北茂安中や高千穂中の試合をじっと観ていました。

僕が、この台宿で一番学んだことは、礼儀と勝負に対する執念です。礼儀

の面では、九州の生徒達がよく気がつききばきと行動しているのをみて、僕はとてもはずかしい思いをしました。勝負に対する執念というのは、文字どおり自分は絶対負けたくないという気迫が体中からあふれていて、圧倒されるばかりでした。これらは、九州の剣道をしている人達全員に共通しているのではないかと思います。

僕には、まだまだなおさなくてははいけないこと、やっぴいかなければならぬことなど目の前に課題はたくさんあります。それらをひとつひとつ消化していき、この遠征で学んだことを、何倍にもして生かせるように、これからまた一から一生懸命頑張りたいと思います。僕にとってこの九州遠征は、本当に貴重な体験になりました。ありがとうございました。

保護者からの便り

あけましておめでとうございます。

日頃は本県剣道のレベルアップ、強化に格別のご尽力ならびにご努力されておられることに對し深く敬意を表します。

さて、一月四日から七日にかけて実施されました剣道九州遠征に際しましては新年早々より誠にご苦勞様でございました。と共に大変お世話になりました。

心より厚くお礼申し上げます。

さらにはまた、先日はご丁寧に「報告書」までお送り下さりほんとうにありがとうございました。重ねてお礼申し上げます。

息子に参加した感想を聞いて見ました。色々話してくれました。いい経験をした。こんどはほんまの国体の選手になるつもりでガンバル……

せっかく参加させていただいたのだから子供の言うとおりに、できることならほんとうの国体選手になるつもりでガンバってくれたらいいなあ、と親バカながら思っている次第でございます。

右井先生をはじめお世話したなきました諸先生、ご指導、ご協力の御座り、誠にありがとうございました。

皆様方のこれからの益々の発展とご健勝を、より互に励み合ひ、切磋琢磨し、活躍をお祈りいたします。誠に失礼に存しますが、是非お礼を申し上げます。

昭和六十一年一月一日

徳島県立徳島南中学校 校長 藤田 敏

48 国体中学校強化錬成合宿

目的 昭和68年10月徳島県立徳島南中学校国民体育大会剣道競技に出場するための競技力の向上

日時 昭和68年3月27日(日) 28日(月)

場所 鳴門総合運動公園武道館(1)15級者

徳島大学体育館(2)7・28・29・30日(1)15級者

参加者

* 指導者 30名 上級者 10名 合計 40名

* 生徒 男子 131名 合計 232名(17)

女子 69名(13) 合計 110名(15)

200名(12) 132名 332名(412)

総計 341名

特別招待選手・チーム

西川清紀選手(昭和62年度全日本剣道選手権者)

佐賀県北茂安中学校(昭和62年度全中国中学校剣道大会男子団体優勝)

* 指導者 2名

* 生徒 男子選手 8名 女子選手 8名

特別参加者

兵庫県上郡中学校(男8女8) 兵庫県南中学校(男8)

* 今回の合宿の特色

(1) 個人の技能レベルにあつた内容の練習をすることにより、系統・次第の二つに分けた。

(2) 現在の日本の最高のレベルの選手を招待し、伸びやかなる中学生に本物の強さを体験させることにより、強い意欲を燃やした。

合宿参加者数

学校名	男子	女子
那賀川	7	5
阿南一	6	4
大麻	2	5
鳴門第一	5	
木頭	4(7)	5(15)
川島	5	4
北島	2	2
高浦	2	3
山川	2	2
城東	5	5
羽油	2	3
藍住	7	6
鏡敷	7	7
文理	3	2
上板	3	5
新浦	3	7
富田	3	3
生松島	3	2
徳南	2	1
六吹	2	1
那賀川	2	2
阿南一	2	3
大麻	2	3
鳴門第一	2	3
木頭	2	3
川島	2	3
北島	2	3
高浦	2	3
山川	2	3
城東	2	3
羽油	2	3
藍住	2	3
鏡敷	2	3
文理	2	3
上板	2	3
新浦	2	3
富田	2	3
生松島	2	3
徳南	2	3
六吹	2	3
那賀川	2	3
阿南一	2	3
大麻	2	3
鳴門第一	2	3
木頭	2	3
川島	2	3
北島	2	3
高浦	2	3
山川	2	3
城東	2	3
羽油	2	3
藍住	2	3
鏡敷	2	3
文理	2	3
上板	2	3
新浦	2	3
富田	2	3
生松島	2	3
徳南	2	3
六吹	2	3
那賀川	2	3
阿南一	2	3
大麻	2	3
鳴門第一	2	3
木頭	2	3
川島	2	3
北島	2	3
高浦	2	3
山川	2	3
城東	2	3
羽油	2	3
藍住	2	3
鏡敷	2	3
文理	2	3
上板	2	3
新浦	2	3
富田	2	3
生松島	2	3
徳南	2	3
六吹	2	3
那賀川	2	3
阿南一	2	3
大麻	2	3
鳴門第一	2	3
木頭	2	3
川島	2	3
北島	2	3
高浦	2	3
山川	2	3
城東	2	3
羽油	2	3
藍住	2	3
鏡敷	2	3
文理	2	3
上板	2	3
新浦	2	3
富田	2	3
生松島	2	3
徳南	2	3
六吹	2	3
那賀川	2	3
阿南一	2	3
大麻	2	3
鳴門第一	2	3
木頭	2	3
川島	2	3
北島	2	3
高浦	2	3
山川	2	3
城東	2	3
羽油	2	3
藍住	2	3
鏡敷	2	3
文理	2	3
上板	2	3
新浦	2	3
富田	2	3
生松島	2	3
徳南	2	3
六吹	2	3
那賀川	2	3
阿南一	2	3
大麻	2	3
鳴門第一	2	3
木頭	2	3
川島	2	3
北島	2	3
高浦	2	3
山川	2	3
城東	2	3
羽油	2	3
藍住	2	3
鏡敷	2	3
文理	2	3
上板	2	3
新浦	2	3
富田	2	3
生松島	2	3
徳南	2	3
六吹	2	3
那賀川	2	3
阿南一	2	3
大麻	2	3
鳴門第一	2	3
木頭	2	3
川島	2	3
北島	2	3
高浦	2	3
山川	2	3
城東	2	3
羽油	2	3
藍住	2	3
鏡敷	2	3
文理	2	3
上板	2	3
新浦	2	3
富田	2	3
生松島	2	3
徳南	2	3
六吹	2	3
那賀川	2	3
阿南一	2	3
大麻	2	3
鳴門第一	2	3
木頭	2	3
川島	2	3
北島	2	3
高浦	2	3
山川	2	3
城東	2	3
羽油	2	3
藍住	2	3
鏡敷	2	3
文理	2	3
上板	2	3
新浦	2	3
富田	2	3
生松島	2	3
徳南	2	3
六吹	2	3
那賀川	2	3
阿南一	2	3
大麻	2	3
鳴門第一	2	3
木頭	2	3
川島	2	3
北島	2	3
高浦	2	3
山川	2	3
城東	2	3
羽油	2	3
藍住	2	3
鏡敷	2	3
文理	2	3
上板	2	3
新浦	2	3
富田	2	3
生松島	2	3
徳南	2	3
六吹	2	3
那賀川	2	3
阿南一	2	3
大麻	2	3
鳴門第一	2	3
木頭	2	3
川島	2	3
北島	2	3
高浦	2	3
山川	2	3
城東	2	3
羽油	2	3
藍住	2	3
鏡敷	2	3
文理	2	3
上板	2	3
新浦	2	3
富田	2	3
生松島	2	3
徳南	2	3
六吹	2	3
那賀川	2	3
阿南一	2	3
大麻	2	3
鳴門第一	2	3
木頭	2	3
川島	2	3
北島	2	3
高浦	2	3
山川	2	3
城東	2	3
羽油	2	3
藍住	2	3
鏡敷	2	3
文理	2	3
上板	2	3
新浦	2	3
富田	2	3
生松島	2	3
徳南	2	3
六吹	2	3
那賀川	2	3
阿南一	2	3
大麻	2	3
鳴門第一	2	3
木頭	2	3
川島	2	3
北島	2	3
高浦	2	3
山川	2	3
城東	2	3
羽油	2	3
藍住	2	3
鏡敷	2	3
文理	2	3
上板	2	3
新浦	2	3
富田	2	3
生松島	2	3
徳南	2	3
六吹	2	3
那賀川	2	3
阿南一	2	3
大麻	2	3
鳴門第一	2	3
木頭	2	3
川島	2	3
北島	2	3
高浦	2	3
山川	2	3
城東	2	3
羽油	2	3
藍住	2	3
鏡敷	2	3
文理	2	3
上板	2	3
新浦	2	3
富田	2	3
生松島	2	3
徳南	2	3
六吹	2	3
那賀川	2	3
阿南一	2	3
大麻	2	3
鳴門第一	2	3
木頭	2	3
川島	2	3
北島	2	3
高浦	2	3
山川	2	3
城東	2	3
羽油	2	3
藍住	2	3
鏡敷	2	3
文理	2	3
上板	2	3
新浦	2	3
富田	2	3
生松島	2	3
徳南	2	3
六吹	2	3
那賀川	2	3
阿南一	2	3
大麻	2	3
鳴門第一	2	3
木頭	2	3
川島	2	3
北島	2	3
高浦	2	3
山川	2	3
城東	2	3
羽油	2	3
藍住	2	3
鏡敷	2	3
文理	2	3
上板	2	3
新浦	2	3
富田	2	3
生松島	2	3
徳南	2	3
六吹	2	3
那賀川	2	3
阿南一	2	3
大麻	2	3
鳴門第一	2	3
木頭	2	3
川島	2	3
北島	2	3
高浦	2	3
山川	2	3
城東	2	3
羽油	2	3
藍住	2	3
鏡敷	2	3
文理	2	3
上板	2	3
新浦	2	3
富田	2	3
生松島	2	3
徳南	2	3
六吹	2	3
那賀川	2	3
阿南一	2	3
大麻	2	3
鳴門第一	2	3
木頭	2	3
川島	2	3
北島	2	3
高浦	2	3
山川	2	3
城東	2	3
羽油	2	3
藍住	2	3
鏡敷	2	3
文理	2	3
上板	2	3
新浦	2	3
富田	2	3
生松島	2	3
徳南	2	3
六吹	2	3
那賀川	2	3
阿南一	2	3
大麻	2	3
鳴門第一	2	3
木頭	2	3
川島	2	3
北島	2	3
高浦	2	3
山川	2	3
城東	2	3
羽油	2	3
藍住	2	3
鏡敷	2	3
文理	2	

17時55分 練習終了
18時10分 夕食

18時40分 風呂(交替で陸上競技場内の風呂を利用)

22時30分 就寝(男子は武道館。女子は宿泊所)

◎ 3月28日(月)

6時30分 起床

7時15分 朝食(男子は武道館で。女子は宿泊所一階で)

8時30分 着替え——準備運動

9時00分 練習開始

10時30分 北茂安中・上郡中・山手中を交えて練習試合。

12時20分 北茂安中・上郡中・山手中と選抜チームの試合。(並行して昼食)

13時00分 西川先生を交えて練習。

14時00分 西川先生・北茂安中への質問他お別れ会。

14時30分 練習(しかけ技・応じ技)

16時00分 休憩

16時20分 地稽古・打ち込み稽古・かかり稽古

17時40分 練習終了——着替え

18時10分 夕食

18時40分 風呂(交替で陸上競技場内の風呂を利用)

22時30分 就寝

◎ 3月29日(火)

6時30分 起床

7時15分 朝食(男子は武道館。女子は宿泊所一階で)

8時15分 着替え——準備運動

9時00分 練習

9時40分 試合(個人戦)——抽選はその場ですべて組合せを決める。

11時00分 着替え

11時15分 ミーティング

11時30分 終了・解散

B部門(徳島)の日程細案

◎ 3月27日(日)

12時30分 徳島大学体育館集合。男女とも入り口左側の体育館南の壁

添いに荷物を置く。更衣室で着替える。(男女とも各自で

貴重品の保管について充分気をつける)

12時45分 着替えて集合。オリエンテーション。先生の説明を聞く。

13時00分 練習開始——準備運動・基本練習

15時10分 休憩(15時30分——集合)

15時40分 西川先生来場。模範練習。

16時20分 地稽古

17時30分 練習終了

18時30分 夕食(荷物を持って食事と宿泊所へ)

宿泊は、男子 徳島武道館 女子 興源寺

風呂は随時、夕食の時間をみてとること。

22時30分 就寝

◎ 3月28日(月)

6時30分 起床

7時15分 朝食(男子は2回に分けて・女子は一度に)

8時30分 着替え——準備運動

9時00分 練習開始

12時00分 昼食(弁当——係りの先生の指示に従うこと)

13時45分 着替え——準備運動

14時00分 練習開始

17時00分 練習終了——剣道具を整理

17時30分 武道館へ全員移動。剣道具を武道館2階に置く。

18時30分 夕食

男子は鳴門屋(3班に分けて) 女子は徳島軒(一度に)

宿泊・風呂については27日(日)と同じ

22時30分 就寝

3月29日(火)

6時30分 起床

7時15分 朝食(男子は2回に分けて・女子は一度に)

8時45分 青少年センターへ移動(荷物を持って)

9時00分 着替え——準備運動

9時30分 練習開始

9時45分 試合(個人戦)——抽選はその場でして組み合わせる。

11時00分 着替え

11時15分 ミーティング

11時30分 終了・解散

中学校指導者五つの柱

ほう・れん・そう・けい・かく

(1) 報 告——ほう

徳島県全体で強化計画を推進するにあたって、できるだけお互いに報告しあいましょう。皆がお互いに動いている実態について詳しく知っておく必要があります。細かいことでも、皆が共通して知っている組織にしていきたいでしょう。

(2) 連 絡——れん

一人の力は本当に微々たるものです。いくら単独で頑張っても限界があります。連絡を密にして、複数で事にあたりましょう。役割を分担しておいた方が、緊急事態に対応することがより可能です。責任があいまいになりすぎるとマイナス面もありますが、連絡をとりあって共同で動きましょう。

(3) 相 談——そう

私達のまわりには、本当にいろいろな体験をして、多くのすばらしい知恵と情報を身につけている方がいます。経験は何よりも尊いし、その財産をぜひ私達の活動に生かさせていけたらと考えています。多くの方々に相談し、より客観的な正しい状況判断をしていきたいですね。

(4) 継 続——けい

何事も続けなければ効果も上がりません。粘り強く執念を持って実行し続けましょう。

(5) 確 実——かく

慣れてくるとマンネリになったり、つい気がゆるんだりして、知らず知らずのうちに雑になります。剣道の指導をしたり事務手続きをしたりする時に、初心に帰って慎重に確実にいきましょう。

沖縄国体の強化対策について

昭和63年3月12日(土)

徳島県総合福祉センタ

講師 沖縄県教育委員会保健体育課長

豊 島 貞 夫

* 講演まとめ(文責 石井 博・徳島県剣道連盟国体事務担当)

* 講演で話された内容を箇条書きにしました。

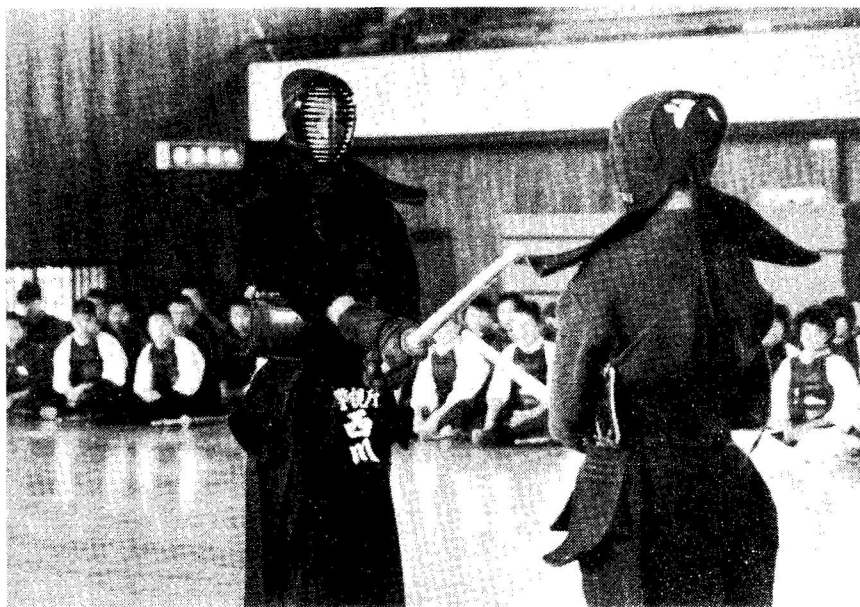
○ 沖縄国体を成功させるために、先催県の先生にいろいろ話を聞かせていただいた。

○ 最初に困ったことは、選手の確保。39競技(高校野球・ボウリングの公開競技を含む)のうち13の未普及競技の選手確保に苦労した。

○ 具体的には、エントリー数の3倍程度の小学生を集めて、スポーツ教室

を置く。

- 国体で総合優勝するためには、少年の部の強化に力を入れる。
- 県内での強化だけでは力がつきにくいので、県外での交流試合を多く持つ。県外遠征は、非常に効果があった。
- 強化の柱となるキャッチフレーズを作った。小泉信三の「練習は不可能を可能にする」。候補選手全員に小泉先生の顔写真入り・直筆のポスターを配布。ムード作りにつとめた。
- 少年の部では、8月の全国総合体育大会の終了後、約1カ月の間に、驚くほど成長した。
- 具体的な方策
 - (1) 連盟・協会の組織の強化（毎年、補助金を出し、組織固めの援助）
 - (2) コーチと県との連絡会議（競技団体と競技力向上委員会が一つになる）
 - (3) 情報交換（懇談会等、県と競技団体で繰り返す）
 - (4) 中学生の強化（中体連への資金援助をし、国体への雰囲気作りにつとめた）
 - (5) 中学校の強化を継続している。（直接の強化に関係無くても、強化を継続している）
 - (6) 事業所を指定（地元の実業所・地域）し、選手強化助成金を支出する。
 - (7) 優秀選手奨励賞を設ける。日本代表クラスに10万円補助。14名に。
 - (8) 健康管理について十分配慮する。（スポーツ障害保険に加入）事前に健康診断を行う。
 - (9) 練習用具の経費を県である程度負担する。
 - (10) 選手をかかえている職場には、ある程度、練習に時間をさいていただけるように働きかける。
 - (11) 現場の教員。1週間で8時間程度、授業時数をへらし、そのかわりに、講師を派遣する。（対象となる範囲は、強化部長・事務局長など）
 - (12) 選手への激励を繰り返す。（強化部長等がひんばんに選手への激励を行い、選手にやる気をおこさせるためのバックアップ体制を作りあげる。）
- 特に大切なこと（学校教育との関係をおさえる。なぜ総合優勝をねらうのか。リーダーが確固たる理念を持ち、批判に対して説得していく。）



徳島の剣道

——各パートからの報告——

一 般

徳島県剣道連盟事務局長 坂 下 彦 之

県内の大会では、三者対抗（教員・警察・実業団）が警察、武道館開館記念大会は鳴門高OB、社会人大会は小松島支部が優勝。

四国教職員大会は、故人下村富夫先生の追悼大会を兼ねて行われたが、第七回目で本県が見事に初優勝。

全国大会では、ここ数年上位によく進出していたが、今年はやや不調だった。そんな中で、竹内（旧姓寺西）選手の全国教職員大会女子の部優勝は、特筆に値する。

八月二十二・二十三日には、全日本剣道連盟主催の四国地区講習会が実施され、多数の参加者が集い、新しい審判規則などについて熱心に講習を受けた。

二月二十五・二十六日には、48国体に関するの中央視察があり、会場候補地の小松島・徳島を回った。会場については、後の講評で合格点をいただいた。

少年の部も本格的に始まり、一般の部も長期展望に立ち、本格的に指導する年となった。

48国体の成功に向けて、一般の部も計画的にレベルアップを図っていかなければならない。

女 子

徳島市立高校教諭 手塚 十三子

昭和六十二年度の女子部の活躍をみてみますと、まず今年度より独立開催となった全日本女子選手権大会に澤辺弘美四段が出場、初出場ながら堂々の試合ぶりを展開いたしました。また八月のインタ・ハイでは富岡東高校が大活躍、そして全国教職員大会では竹内佳代子五段が見事優勝、と各種大会ですばらしい成績をあげています。

このように女子の小・中・高校、大学・一般の全国大会が数多く開催されるなかで、六十三年度には全剣連も全国女子講習会を八月六・七日、神奈川県で実施との報告を受け、その伝達を兼ねて本県も女子のみの講習会を実施したいと考えています。

また本県における女子初段の合格者をみてみますと、六十一年度は九十一名、六十二年度は八十名、やや減少したようですが、木頭中学校や北川小学校等の活躍もめざましく、有望選手が多数で、48国体少年女子の展望は大変明るいと思っております。

女流剣士の皆さんの今後益々のご活躍をお祈りいたします。

高 校

城ノ内高校教諭 西 谷 肇 一

本年度最初の大会、会長杯争奪大会は昨年続き男子阿南工業が勝ち、小松島、富岡東と続いた。女子は三年連続で富岡東が勝ち、脇町、富岡西の順であった。高校総体では男子昨年新人大会優勝の富岡西が接戦の末優勝、以下富岡東、川島、脇町となり、女子は富岡東が二連覇を果たし、続いて富岡西、川島、脇町の順であった。また、個人戦では男子一位山田（川島）、二位佐藤（生光）、女子は一位二位とも富岡東の林、河野が独占し、全国総体

二場種を復活した。

四国大会では、男子個人、団体とも予選落ちであったが、団体は各ゾーンで二位と善戦した。また、女子において個人楠（富岡東）団体富岡東がともに優勝し、すばらしい成果を挙げた。全国総体でも女子個人で林（富岡東）が三位に入賞し優秀選手の表彰を受けた。また、団体でも富岡東がベスト8に入賞した。

国体では、長井（川島）、福多（富岡西）、松永・香川・鳴川（富岡東）の一・二年生の若いメンバーでありながら三回戦まで進み、地元沖繩チームを脅かした。

来年度総体を占う新人大会では、男子富岡西が十回目の優勝、続いて富岡東、川島、徳島市立、女子では、三年連続富岡東、次に脇町、川島、徳島市立の順位であった。今後とも合宿、遠征等をより充実させ、視野を広めるとともに心身ともに全国レベルを越えるように日々の努力を期待します。

中学校

附属中学校教諭 石井 博

六月の選手権大会では、男子は相生が鴨島一に競り勝ち、女子は木頭が阿波を下した。七月の総体は、男女とも木頭が優勝。個人では、男子三年笠井（鴨島一）、二年久田（阿南）、一年植木（鴨島一）が優勝した。

四国総体では、女子団体学校対抗女子の部では、木頭が初優勝した。

全国大会では、女子で木頭が予選リーグを突破。決勝トナメントで、準優勝した名（愛知）に惜敗した。

新メンバーになった新人大会では、男子は阿波が阿南一を下し、女子は木頭が阿波を下した。

一月四日から七日まで選抜チームで九州遠征を実施。48国体強化の第一歩を踏み出した。

また、三月末には、昭和六十二年度全日本剣道選手権者西川清紀先生を招

き、二場種復活を実現した。希望者は、選抜チームで二回ある起立中学生の強い向上への意欲を感じた。

今年、48国体時に高校三年生になる生徒が中学校へ入学する年。三年間、中学校指導者が総力をあげて、精一杯指導にあたっていきたい。

少年部（小学校）

少年部長 柏原 浩

昭和六十八年徳島で開催される国体剣道大会での「優勝」を目指して今年も強化錬成大会を男子・女子に分けて実施した。七月には五十五教室から選抜した男子六年（一〇一名）、五年（一〇九）名が堀江会長、大沢副理事長の指導で基本錬成を主体にした大会（試合錬成除く）をし父兄より大変好評を得ると同時に次回も人数を多くして実施して欲しいと強い要望を受けました。また十二月には三十教室から女子六年（三十一人）、五年（三十八人）の選抜で錬成大会を実施し午前基本錬成、午後試合錬成を行い特に試合錬成は班別総当りで一人が七人対戦するという密度の濃い実施で選手には大変勉強になったと思います。

今年、六年生（国体時高三）が中学へ進学する為中学校指導者へバトンタッチですが六十三年度も新六年生（国体時高二）を主体に今年同様実施したいと思っておりますので先生方の御指導御支援をお願い致します。また六十三年度は剣道連盟専門部内の少年部（スタッフ八名）では現在県下にある七十七少年剣道教室の実態調査、指導方法等の勉強を実施したく計画中でありますのでその時期に各教室の先生方には御協力、御指導、御支援の程お願いします。

技術向上へ地道な練習

——富岡東——

県勢女子の優勝は四十四年の脇町以来。男子にいたってはまだまだない。長い間立ちほだかってきた四国の壁を、富岡東が十八年ぶりに破る快挙を成し遂げた。

決勝の高松南戦は先手を取ったものの、その後一―二とリードされ、もうあとがない苦しい展開。しかし、前日の個人戦を制し勢いに乗る副将の桶が快勝し、再び流れを引き戻す。そして大将戦。林が中盤、相手の引き際に飛び込んでのメン、さらにすかさず下がりがメンを放ち連取。鮮やかな逆点勝ちを収めた。

うれし涙を流し肩を抱き合う富岡東の各選手。試合後、河田監督は「近藤がよくチムを引っ張ってくれた」と優勝の立役者に一年生の先ほうを挙げた。近藤は持ち前のパワー！と思いきりのよさを買われ、今大会から初めての抜きて、ポイントゲッターとして期待通りの活躍ぶり。当の近藤は「声もよく出たし、ただ攻め抜きました」と信じられない表情だ。

「決勝トーナメントの上位三校とは練習試合でも分は悪かった」と河田監督。しかし貴重な対外試合と地道な練習の積み上げを技術向上に結びつけた。それが大事な本番で各選手が力を出し切れた結果にはかならない。「構えが崩れない剣道を完成させたい」。同監督はインタハイに向け、新しい目標を掲げた。

(62・6・22)

九州へ武者修業

48国体の選手強化への初の試み

来月四日、中二生ら十六人派遣

県剣道連盟（堀江幸夫会長）は六年後に控えた第四十八回国体（徳島・香川両県開催）へ向け本格的な選手強化に取り組むことになり、手はじめに明年一月上旬、中学校二年生の有望選手十二人と指導者四人をレベルの高い九州に派遣して移動合宿を行う。他競技に先がけた意欲的な試みだけに注目されている。

県内中学校の剣道レベルは全国中学校大会ではベスト8どまりで、厚い壁に阻まれている。このため「日本一を目指して」をスロガンに指導者と選手が丸となった強化訓練に取り組むことになり、最初の移動合宿地に本年度全国中学校大会男子優勝の佐賀県北茂安中学校と全国大会上位常連校の宮崎県高千穂中学校を選び、両校の選手たちと手合わせして全国レベルの実力を吸収する。同行の指導者は併せて、その指導ぶりを勉強する。

日程は三泊四日で、一月四日午前七時、車に分乗して徳島市を出発、岡山経由で同夜、佐賀県三養基郡北茂安町へ到着。五日は北茂安中選手などと練習試合のあとけいこ。午後三時同校を出発して同夜、宮崎県西臼杵郡高千穂町へ。六日は高千穂中で練習試合とけいこを行い、同夜は別府市で宿泊。七日朝、別府市を出発して愛媛県三崎——松山市を経由して夕方帰県する。

県剣道連盟は、来年五月には女子選手も加えて名古屋遠征を計画している。引率する石井博（中体連剣道専門部長（附属中教））は「国体を控えて本格的な強化に入るが、当面は六十五年に四国で行われる全国中学校選抜大会に向けて来年から中学校強化期間に入る。今回の九州遠征はそのスタートとなるもので実り多いものにした」と、話している。遠征する指導者と選手は次の通り。

▽総務 石井博（附属中教）▽監督 富田正（宮浜中教）▽コーチ 榎本英夫（上八万中教）▽マネージャー 中山繁輝（文理中教）▽選手 植木淳、

北川忠司（以上嶋島一）坂本晋、中川昇（以上阿波）松村啓之、楠正吾（以上市場）近藤淳司、橋本忠久（以上宮浜）川西文男（阿南一）山室雅幹（藍住）中野威洋（木頭）岡本正博（鶯敷）
（62・12・17）

中学校優秀選手34人を発表

県剣道連盟（堀江幸夫会長）は十二日、六十二年度の優秀指導者一人、中学校優秀選手三十四人（男子二十一人、女子十三人）を発表した。

優秀指導者の河田清実教諭（富岡東高）は本年度、インタハイ（北海道）で富岡東高女子チームを団体ベスト8へ導き、個人戦ではベスト4進出者を出した。中学校優秀選手は次の通り。

【男子】松岡秀樹、原原文雄、田中節、谷沢真樹（以上木頭）吉田幸司、井内康之、白石浩史（以上阿波）昇睦美、山川渉、前田勝也（以上宮浜）谷崎晴彦、登健司、殿谷正志（以上相生）笠井秀彰、北川剛（以上嶋島一）中浦和浩、岡本修志（以上鶯敷）森晋作（藍住）吳羽貴志（阿南二）瀬野修（市場）松原宏幸（阿南）

【女子】小藪美鈴、谷雅代（以上木頭）米倉史、岩本文江、福原弘子（以上阿波）福住朋子、中村美穂（以上那賀川）池村美智恵（山川）浜田麻紀（羽浦）三笠貴子（穴吹）三木綾（富田）泉久美子（阿南一）（63・1・13）

九州遠征 成果は上々

技術や指導方など吸収

県剣道連盟と県中体連剣道専門部は、48国体の選手強化へ初の試みとして、強豪チームのひしめく九州地区へ中学二年生の十二選手を四日から七日まで「武者修業」させたが、成果は上々。今後も継続して各地へ遠征を行い強化

をはかる。以下は選手団を引率した石井博県中体連剣道専門部長の九州遠征報告。

今回の九州遠征の目標は、全国レベルではベスト8。どまりの県内中学校選手の実力の向上と、指導方法の吸収だった。指導者四人、選手十二人の一行十六人は、車に分乗して、四日朝、徳島市を出発、岡山經由山陽道から九州へ向かい五、六の両日、佐賀県三養基郡北茂安町と宮崎県西臼杵郡高千穂町を訪れ、中学生チームと手合わせした。

二日間の練習試合の総合成績は19勝13敗5分け、勝率5割9分4厘で県選抜チームがわずかだが勝ち越すことができた。われわれ指導者が見た北茂安中、高千穂中の共通している点は①地域全体の少年剣道が盛んで幼児期から竹刀になじんでいる②中学校の指導も少年（小学生）剣道の指導に行き、指導者自身が個々の選手の長短所を熟知している③小学校の有望選手がそのまま地元中学校に入學するので、小中一貫して指導できる——などのほか父兄が非常に熱心で遠征に行く際には、車で付き添ったり、町外から地元へ試合に来たチームには朝夕食の炊き出しなど積極的な援助活動をしていた。

また指導者がすぐれていることがチームを強くしていることはもちろんだが、積極的に遠征を行い、高い技術を持つ選手と交流して技を高めている。年間の大会参加は北茂安中四十回、高千穂中三十回、県外長期遠征は年間四、五回にわたっている。

今回の遠征に参加した本県選手十二人の感想は①勝負への執念、気迫が技群②勝負のかけ引きがうまい。団体戦ではチームの流れをよく読んでおり、自らの役割を心得ている③相手によって柔軟に対応する④打つタイミングをとらえる呼吸がうまい⑤一本一本の打ちに力強さがある⑥足さばき（フットワーク）がよい——といった点が大いに参考になったという。

県選手の試合ぶりを見ると、初日に北茂安中と試合をしたあと翌五日の高千穂中との試合では、試合運びが全く違っていた。いろんな面で強い刺激を受けたのがよく分かった。選手、指導者ともに実りある遠征であった。

48国体を控えた県剣道界としては、この遠征で得た教訓を生かし①指導者の資質の向上②中、高校の連携（選手、指導者とともに）③保護者の理解と

一月四日の夜九時。正月気分はまだ抜け切らない夜遅くの来訪。連絡をとっていた中学校の先生が待っていてくれるかな、と予想しながら走っていた私たちはあまりの歓迎ぶりに、入り口では驚きで声も出ない。中に入ると、歓迎会の準備が整っており、長い時間、待っていた様子。冷静に思い返してみると、あの信号の所では、きつと長時間、車のナンバーを見てくださったのだろうか。

遠征先に選んだのは、本年度の全国中学校大会で優勝した学校。四国の弱小チームがお願いしても、相手にしてくれないかもしれないという不安を胸に、電話で交渉。まさに当たって砕けるの心境だった。意外にも「歓迎します」という返事をいただいたが、まさか、これほどまでとは。まさに文字通りの「熱烈歓迎」だ。

遠征先の中学校の剣道は、予想通り素晴らしかった。勝負への執念、気迫、試合のかけひき、どんな相手にも対応できる柔軟さ、打つ機会のとらえ方のうまさなど、学ぶべき点は多かった。

私たち指導者が何よりも学んだのは人間としての温かさと熱意だった。ここでは、地域ぐるみで若者を育てており、横のつながりをとても大切にしている。日本一になったというおごりもなく弱いチームにもこのように温かく対応してくれたことだった。

剣道には「剣の理法の修練による人間形成の道」という理念がある。北茂安中の生徒、保護者には、まさに剣道を通じて磨きあげた優れた人格を感じさせられた。

今春の県中学校剣道強化合宿に、この北茂安中チームと全日本選手権大会優勝者の警視庁西川清紀先生を招待している。最高のレベルの選手、指導者に接する機会を作ることによって若い芽を大きく育てようというのが狙いだ。すでに三百人を超える中学生の参加希望がきている。「熱烈歓迎」するのはいうまでもないが、五年後の48国体では剣道優勝という形でご恩返ししたい。

(県中体連剣道専門部長・石井 博) (63・3・8)



全国大会に参加して

全日本剣道選手権大会に参加して

近藤 巨

昭和六十二年十一月三日、日本武道館において第三十五回全日本剣道選手権大会が開催されました。試合は各都道府県代表五十八名の選手とのトナメント戦により実施され、結果は東京代表の西川六段が九回目の出場で悲願を達成し天皇杯を手に入れました。今回もジンクス通り前年度優勝者の連覇は成らず、本当に優勝することは難しいと改めて感じました。

私はこの大会五回目の出場になります。「今年こそは天皇杯を持って帰るぞ。」という意気込みと、反面「一回戦で負けるのでは」という弱気が交錯した複雑な気持ちを抱えていました。しかし、「自分の全力を出しきろう。そして悔いの残らない試合をしよう。」と自分に言い聞かせ大会に望みました。対戦相手は大阪代表の船津六段。過去一回警察選手権大会で一本負けをしている相手です。試合内容は、試合の前半、中盤と船津選手得意のコテに対し、応じメン、出頭メンと有利に展開していたと思いますが、試合終盤、船津選手コテ中心の攻めからメンに変わってきたのに対し、私はよけきかれずメンを取られ、時間がきて一本負けとなりました。試合の反省点はいろいろありますが、一本にすべき時に思い切りがなくて弱く打ちしかできなかったということにあると思います。それは「恐ろしい」という意識があるからで、今後は稽古によってしっかり攻め合いをし、充分溜めた打ち、攻め崩して打てるようになり再度挑戦したいと考えています。

最後になりますが、大会にあたりご指導頂いた堀江会長はじめ連盟の皆様にお礼を申し上げます。

第二十六回全日本女子

剣道選手権大会に出場して

上八万中学校講師 澤 辺 弘 美

全日本大会での私の試合を省みると、なんとも情けない、と思うばかりです。終わってようやくわかったのですが、私は、「全日本」という大会の雰囲気呑まれ、あがっていることもわからなくなる程、舞い上がっていたのです。それに、まだ私は「攻め」というものを修得していませんから、相手の剣が少しでも変わるとそれに動じてしまい、自分のペースで剣道ができなのです。全く、勉強不足でした。「攻め」についても、あの大会時点では、全然、丸っきりわかっていなかったのです。その時は、「攻め」をわかっていような気でしたが、今考えると、恥ずかしい程、なってなかった、と思います。ただ、跳躍力でカバーしただけの若さのみの剣道でした。

全日本に出場して思うことは、「今年も全日本に出たい。」ということですが、全日本大会に出て、「試合」に対する欲が出てきたようなのです。それでも、またダメでも、次、そのまた次、といつまでも、自分を試していきたいのです。そのためには辛い朝の武道館稽古にも頑張っ通い、他方で違った練習方法を試み、新しい自分を発見して、剣道に貪欲になろうと思います。

最後に、様々な所で稽古して頂いた方々に色々ご指導をして頂いたにもかかわらず、ふがいない成績に終わって、どうもすみませんでした。これからは、剣道という器に早く魂を入れてやれるよう頑張りたいと思います。

全国教職員剣道大会

穴吹中学校教員 竹内佳代子(旧姓寺西)

決勝の相手は、秋田県代表の村上カナエ選手。昨年の本大会のチャンピオン。彼女と対戦すると知った時、「またか」とつぶやいてしまった。というのも過去三回、全国大会(S 61、62教職員大会、S 62全日本女子選手権大会)で対戦し、三回ともくやし涙をのんでいたからである。でも、それ程気遅れはなかった。「二度あることは三度あって四度はない」などと、勝手なことわざを自分自身に言い聞かせたりして、今ふり返ってみると、非常にリラックスした気持ちの状態で、試合に臨めたように思う。

試合中も、変に肩に力がいったりということもなく、身体も思うように動いてくれた。(生徒と一緒に、毎朝ランニングした成果?)相手の動きも冷静により取れたように思う。「延長はじめ」の合図と共に、思いきって小手にとびこんだ瞬間の感激は一生忘れないだろう。

「いつか全国大会で優勝する」幼い頃からの夢を、独身最後の年に実現できたことを、非常に幸運に思う。女性は男性と異なり、いつでも剣道に打ちこむということはできないけれど、この感激を一つの糧として、家庭生活とも両立しながら、今後は指導者として頑張っていきたいと考える。

全国高等学校総合体育大会

剣道競技に参加して

富岡東高等学校 林 美枝

「勝っても負けても悔いの残らない試合にしよう。」そう思いながら参加した北海道砂川市でのインタ：ハイでした。実際試合が終わってそうできたんじゃないかと思えます。試合は、団体戦一日根雨高校、久御山高校、二

日目埼玉栄高校にそれぞれ勝ち念願のベスト8を得ることができました。私達はいつも、試合で緊張してくるとおちついて試合ができるようにおまじないとして背中を一発だけたたきます。この時もやはりお互いの背中をたたいて励まし合って試合にのぞみましたが、いつもよりチームの気持ちが一致していたように思います。そうやってチームの雰囲気は盛り上がり、そのおかげで勝って行けたんじゃないかと思えます。準々決勝ではおしくも前橋商業に敗れ、みんなくやし涙を流しましたが私は、よくがんばってくれたと感謝の気持ちでいっぱいでした。

個人戦は、思ったより体はよく動いたのですが一試合一試合が長く苦しいものでした。というのはみんなそれぞれ粘り強くしっかりした打ちで攻めてくるからです。一本とるのがやっとという感じでした。準決勝では気を抜いた所を打たれて敗れ、結果は三位でした。負けたけれど「よかった。」という感じでした。最後の大会にいい思い出ができた本当に光栄だと思います。

今までご指導下さった先生方、応援して下さい下さった皆様、そして、一週間もの間自分の家族の様に接し、お世話して下さい下さった川端家の皆様から厚くお礼申し上げます。

第十七回全国中学校選抜剣道大会

木頭中学校三年 松岡 秀樹

僕が全国大会に行くって最初にホッとしたのは基本面で大きな差が見られなかったことです。実際、予選リーグで戦ってみて、「僕達とあまり変わらないな、これは勝てるかも」と思いました。しかし全国の壁の厚さを決勝リーグではつくづく思いしらされました。上位に行けば行く程すさまじい気迫なのです。執念の目で相手をにらみつけている気迫が観客席の僕達にもひしひしと伝わってきました。こんな気持ちは徳島では感じたことがありませんでした。徳島の中学生はやさしすぎてこんな気迫が持てないのかもしれない。そして次に感じたことは足さばきの違いでした。練習に練習を重ねてつく

かまげられた強じんな足腰は、見るものを圧倒します。どんな体勢でも腰が入った打ちができるということに感心させられてしまいました。徳島の中学生もこれに習って足腰をきたえ上げ、試合にのぞめばきつといい結果が得られると思います。

そして最も強く感じたことは、平常心を常に持ちつづけ、自分の役割を必ず果たしていたということでした。その平常心というものは、やはり厳しい練習に耐えてきたという自信から来るんだと思います。この自信が試合に勝つ最も必要な要素だともいえると思います。

全国大会にいて僕はこのような事を感じました。僕もこれからこのようなことを頭において頑張っていきたいです。

第二十二回全国日本居合道大会

平尾 勝美

第二十二回全日本居合道大会は、六十二年十月四日高知県立春野総合運動公園体育館に於て開催されましたが、本年は全日本剣道連盟創立三十五周年記念大会でもあり意義深いものがありました。取り分け本年は徳島県剣道連盟会長堀江幸夫先生が前日から高知入りし同夜行われた前夜祭にも御参加下さり、大会当日は終日御観戦になると共に選手達を勇気付けて下さいました。亦一方徳島県選手団は例年七段の選手が監督を兼ねて居りましたが試合の公正を期する上からも必ず監督が控えて居なければならぬ方式になって大変困って居りました処本年は別に監督をつけていただきまして連盟の御理解に感謝申し上げます。戦績としては五段の部六段の部共に二回戦で惜敗しましたが、七段の部に於ては四回戦まで進出しベスト8入りすることが出来ました。総合成績では高知県が各段優勝し見事団体優勝を飾りました。心からお喜び申し上げます。

第二十二回大会を終え感じた事は今回の大会では「指定技間違一」が全く皆無であった点で全選手が極わめて冷静に演武出来た事によるものと心から敬

意を表する次第でございます。
一 本県に於ても今後全員心を二にして次回を目ざして益々修練に修練を重ねて参り度いと思つて居ります。



わが郷土の剣豪紹介

〈円生谷支部〉

大澤善二郎先生

明治三十六年一月二十八日那賀郡木頭村和無田父弥三郎の長男として生る。祖先是刀鍛冶であったそうである。大正六年二月和無田小学校卒業、木頭村立北川小学校代用教員として勤務、大正七年四月県立徳島師範学校に入学、正科の剣道部に入り、四力年敵しい稽古に励む、四年生秋県下大会で十五名勝抜き優勝、大正十一年三月卒業、武道技術抜群賞受賞、近江佐久郎先生より貫心流剣術離静の巻、心明の巻、二巻伝授さる。大正十一年三月板野郡堀江南小学校訓導、故郷大城トラ子十七歳と二十歳で結婚幸せな日々を送る。大正十三年三月木頭村立北川小学校勤務、教育に専念する。剣道の出来る学校を希望、昭和七年三月那賀郡立江小学校勤務、籓上石丸先生に師事、少年剣道の指導優勝等数々好成績を挙げる。敵しい剣道修業に打ち込む。昭和八年県下教育者体育大会優勝、昭和七年五月より十年間京都大会に参加する。昭和十年三月徳島富田小学校勤務、剣道部教師囑託される。千日稽古を目標として少年剣道をみっちり三力年間指導をする。此の間県下優勝等数多く良き成績をあげる。稽古も毎年寒稽古のある時は一日三回、平常の日でも二回と稽古も多く生涯を通じ先生にとりて、一番敵しく苦しい修業の三力年であったそうである。昭和十三年木頭村立北川小学校長勤務、昭和十五年一月、自宅裏に剣道場大和塾を自費で建設、村内の幼少年、青壮年、男女に剣道を教授、私も二年間正しい剣道の指導を受ける。二十年八月終戦、武道は禁止、大和塾廃止、昭和二十年十月退職、思いがけぬ敗戦と剣道禁止で、剣道を生き甲斐として来た先生大きなショックを受ける。裏の山小屋生活三年餘り、

のち権田に移り独居生活三年余の修業をする。昭和二十七年六月頃より朋友の西岡氏の映画館を無償で借り、一晚置きに、村内の青壮年に四力年餘稽古指導をする。此の間出張審査で数名の有段者が誕生する。昭和二十七年十月木頭村教育委員となり、委員四力年、委員長八年勤め村教育発展に貢献、昭和二十八年五月より、昭和三十五年五月まで連続八年京都大会参加、昭和二十九年教士号享受、円生谷支部剣道向上の為、優勝旗を寄贈、昭和三十年全剣連より六段享受、昭和三十一年十一月専用道場大和錬心館建設、錬心館館長就任、稽古も日には必ずと言ってよい位道場に来て稽古、指導に当たる。中学校教育課程に、剣道を正科として取り入れる。弘道館より七段を享受、昭和三十四年十二月門弟十三名を連れ、十日間、四国・周武者修業、昭和三十六年南二軒屋町に移住、以後徳島木頭を、往復剣の道一途に専念される。昭和三十七年剣道連盟より表彰を受く、昭和三十九年徳島市立高校、勝浦園芸高校の剣道講師以後五力年間指導に当たり、実績をあげる。昭和四十一年四月木頭村百段突破記念剣道大会を盛大に実施する。昭和四十二年四月第二錬心館道場新築落成館長となる。昭和四十五年三月九州一周武者修業十名、剣道を修業する者にとって大なる効果があった。昭和四十六年二月徳島県体育功労者として表彰を受く。剣の道は一日として忘れたことなく、晩年は健康に留意せられ、剣舞、日本舞踊をとり入れ、私達も御指導を受けた。教育者として教育の道を全とうし一生涯を剣の心技の道に精進せられ、剣を通じ心身共に健全、豊かな人造りの為、生涯を捧げられた、善徳業績は永久に消える事なく生きつづく。昭和五十年五月九日永眠。

〔松本英雄記〕

〈麻植支部〉

剣豪と言われる剣士には、武勇伝など逸話がつきものである、しかし、わが町にはそうした逸話を語り伝える剣士を聞かない。果たして剣豪と言ってよいかどうか、山川町史に剣士として掲載されている人のなかから二人の剣

士を紹介することにする。

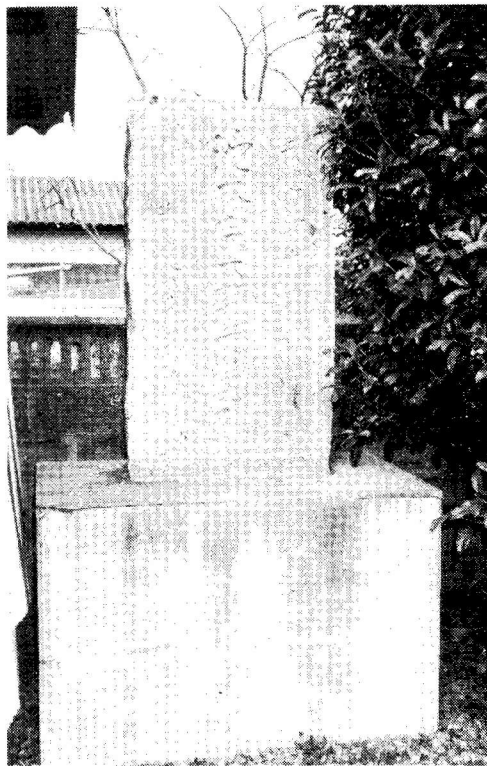
原田柳次幸元——この人は安永七年（死亡年次から逆算して）山川町坂田に生まれ、新陰流の直系仁木守兵衛義行から天保五年に直免状を、天保六年に新陰流伝書を与えられ、更に天保九年新陰流兵法門太刀を伝授された。その許状は今も子孫の家に遺されている。

この人について、何一つ語り伝えられるものがないのは残念である。しかし、同家の位牌によると元治二年四月八日歳八十八の夭寿を全し「釈達道居士」と諡（おくりな）されている。剣技だけでなく学問にも通じ、衆に抜きん出たその人柄をうかがい知ることができぬ。

池本宗太郎——又太郎の長男として安政二年正月一日、山川町麦原に生まれる。父又太郎は名西部高原の人稲田家の臣、剣術師範山根大蔵に師事し貫心流の免許皆伝に達した人である。

宗太郎は山根大蔵の子正雄（後、範士の称号を受けた。）について精進すること十余年、ついに貫心流の奥義を極め、後生家で門弟に教授し多くの剣士を育てた。

稽古は厳しく、冬天の未明にも庭前の霜をはだして踏む荒稽古であった。



その剣技はおよそ業の妙を極め、齢五十を越えて瘦身、しかも竹刀さばきは衰えるを知らず、試合に發揮する胴技の冴えは人々を驚嘆せしめたと言われる。

また、彼の生涯は何等かの形で町政に尽くした人である。若くして村会議員に連選され、明治三十八年から大正五年の十一年間、川田村の名譽有給助役に挙げられた。

山川町史には彼を評し、つぎのように称えている。「衆望を集めた徳の人であり、剣技においても善剣を思わしめるものがあった。山川町としても類例の少ない人材と言える。」と、大正十二年七月十四日七十歳で長逝した。

彼の高弟宮本昇平は、師の遺徳を偲び町民体育館（住吉）正面横に御影石に「貫心流池本宗太郎之碑」と刻した二メートル余の碑を建立し、永くその徳を称えている。

〈名西支部〉

剣道範士 石井隆介先生



劍禪 一如

道場という言葉は、仏教で使った言葉で、仏道を修行し弘法を広める場所であった。したがって剣道を修行する場所を道場と名づけたことは単に技を練るだけでなく精神を修養し、胆力を鍛える最も神聖な修養の場という意味である。

宮本武蔵の「五輪之書」に「常にも兵時にもすこしもかわらずして」という言葉があり、武蔵の剣道の核心が、ここにあることがわかる。また故人の格言に、「平常心これ道なり」ともある。

東郷元帥の執筆になる麻植中学（現川島高校）の校旗「至誠無怠」という

玉津各息

剣道 宗匠 宗匠 宗匠

文字にも剣の奥義が秘められている。

剣道をするとき、禅の境地にいることを念じつつ道場に入るが、いまだに到達しえない。

四六時中、工夫を凝らし、苦しみ、寝てもさめても怠ることなく勤め、不断の修行がなければ到達できない目標が、「剣禅一如」でなかるうかと教訓して下さります。

先生は明治二十一年（一八八八）二月十四日今から丁度一世紀前、名西郡石井町に生まれる。四十一年三月香川県立丸亀中学校四年修了で故郷に帰り、伯父の仕事（製糸、藍）を手伝う。少年時代すでに柳生神影流久保利雄師の門下生となつてはいたが、本格的に稽古をやり出したのはこの時代からである。同門に須見善富、松尾誠一、藤川五郎、田村堅一、仁井利雄がいた。お互い稽古を争い上達は速かった。武徳会徳島支部、同名西支所などの教授として活躍した人達である。

大正十三年四段へ。翌十四年精錬証を享け、県立麻植中学校へ勤めるや、武烈文昭、至誠無息の精神を剣を通して教え、麻植中剣道の礎を確立した。

昭和七年五段、十四年教士号を、十六年六段に進む、技、心共に好調の時である。

戦後、徳島県剣道連盟の理事長として暫時、審議員として永い間、県剣道界の発展に努めた。昭和三十三年七段、三十六年居合道七段、四十七年には範上の称号を授与された。このあと六月に体育功労者として、県知事表彰を、秋十月には文部大臣の表彰をうけた。死没の日勲六等に叙せられ旭日章が授けられた。

生来大変器用の質で中学時代の剣道の外、野球、鉄棒、馬術などが上手であった。書道は剣道よりも早くから勉強し、あたらしいのよりも毛の先が少し減った筆を使っていた。酒は大変好きだったが味を言う方で、量としては大酒豪ではなかった。

現審議員長石井克太郎先生はご子息であり門下生には剣連副会長に重井高、審議員に高下正義、美馬政雄、阿波支部長坂本裕二日麻植中卒業生の弟子達が多く活躍している。

〈阿波支部〉

心形刀流 井後哲五郎

徳島県立阿波高等学校北方、板野郡吉野町広永通称「広永往還」の中程の南側に生垣で囲まれた二段余りの広い敷地（写真二）に古風な玄関付の母家（写真三）と左側に高さ二米六〇幅一米二〇の立派な榎雪井後先生頌徳碑と書かれた石碑（写真四）がある。この屋敷に幕末期より明治にかけて千余名の門弟を教えた心形刀流井後哲五郎の道場があった。

榎雪は井後哲五郎の稚号で前の「徳島剣道」三号に紹介した佐藤呷三郎の末弟で天保八年（一八三七年）阿波郡市場町香美藤太天須賀原十佐藤五郎兵衛の三男として生まれた。

幼少より佐藤香雪に漢字、赤松藍洲、後藤田南溪に書、剣法を心形刀流阿波藩師範多田幸衛、槍術を原軍左衛門に学び皆抜群の擧高った。

長兄呷三郎、次兄半作共に江戸心形刀流伊庭道場に入門修行し帰郷した。榎雪遊心押え難く方延元年（一八六〇年）廿三歳の時江戸九代伊庭軍兵衛秀俊の門下生となった。

入門するや天賦の才と努力により門弟中頭角を顕し遂に筆頭弟子となる。（武道大系第一巻口訳載）更に切差琢磨し印可を受け文久元年（一八六一）心形刀流称徳号「常志子」を授与された。

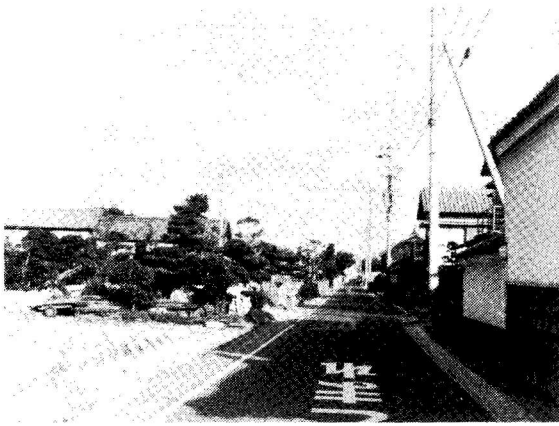
文久二年（一八六二年）奥義を極め帰郷する。偶々伊勢の国主藤堂公より師範の招聘あるも辞して原土井後信正の養子となり井後家を継いだ。

榎雪幕末維新の動乱期には藩主蜂須賀公に従い京都御所守護、会津戦争に従軍、海軍総督聖護院宮御借人となる。これ原土の破格の住勢であった。明治初年に、西の民政掛、阿波郡郷学校創術讀書助教、学区取締役、町、村戸長等要職につき治政に盡力した。

明治二十二年十月、一切の公職を辞し屋敷に江戸伊庭道場を模し四間に六間の道場、門弟子の宿泊所等而建て専ら剣術と文を教えた。特に文の指導に力を注いだので徳島県は一円東讀白鳥三木松方面から多数入門し大いに榮えた。

明治廿八年大日本武徳会創立されるや徳島支部結成に長兄佐藤亟三郎、次兄大島伴作等と盡力し自から常議員剣術教授となり徳島剣道界に盡し近世徳島剣道の基礎を作った。

晩年は詩歌を吟詠し書を書き老を養い明治四十年病を以て七十一歳で没した。
坂本裕二記



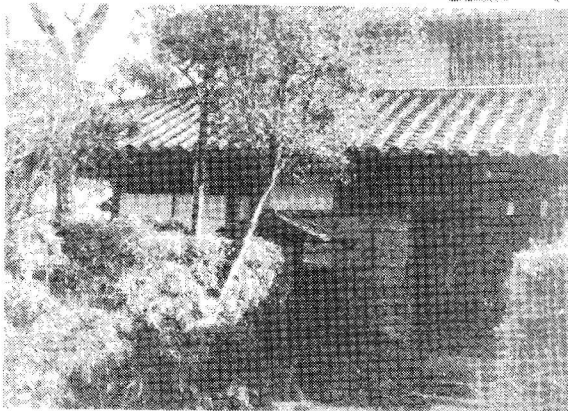
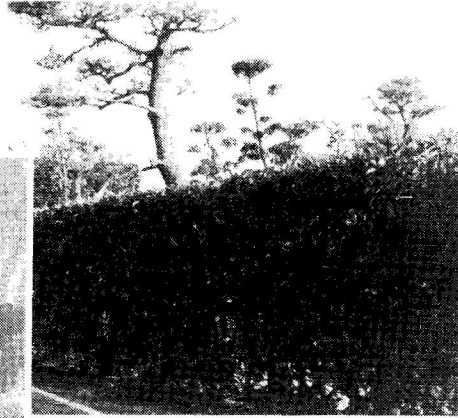
〈写真一〉

通称「広永往還」約1km

ここで原土集団（広永組）二十家が両側で住居し乗馬の稽古した。井後家はこの中程にある。原土と言うのは現代人に考えられない程の格式と権威があつてこの往還は村役人郷士などは馬上で通れなかつたと言う。

〈写真二〉

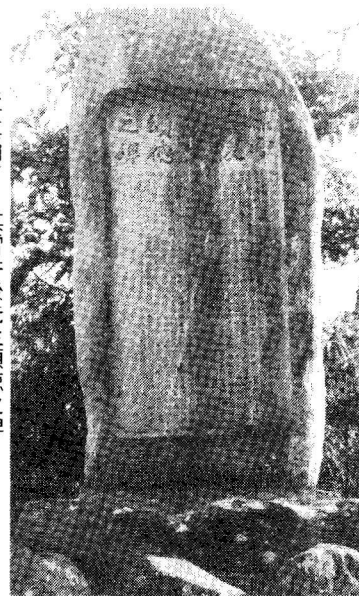
この生垣に沿って四間に六間の道場があつた。



〈写真三〉

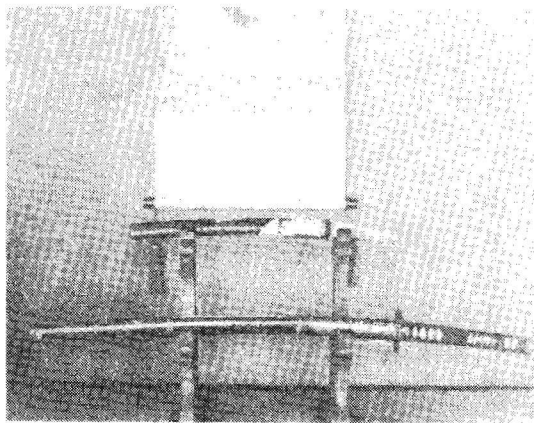
井後住宅

井後家が原土成立されて以来生活した由緒ある住宅。正に二百有余年経ている。



〈写真四〉 榎雪井後先生頌徳之碑

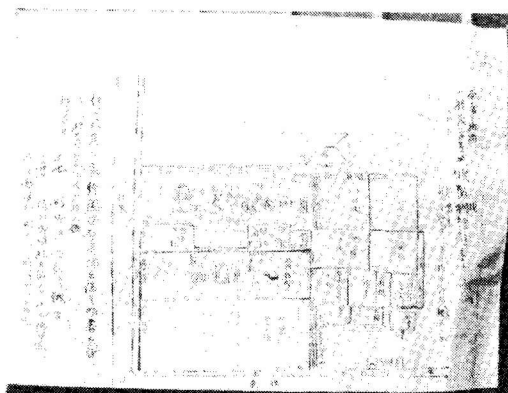
大正三年二月建立 岡本斯文撰並書
 枢密院顧問官正二位 勲一等侯爵
 蜂須賀茂韶題額



〈写真五〉

伊庭道場は今の東京都台東区東一丁目JR御徒町駅附近にあった。江戸は文政頃一般に土風陋ち武士は遊惰に流れ華奢な細身の刀、朱塗の派手な鞘に雪駄穿きと言う軟弱な風俗が流行した。伊庭道場は之を憤慨して門人にはこの風俗を禁し刀の拵も独特なものにした。それで、一見して伊庭道場門下生であると分かった。

この刀は榎雪佩用の「心形刀流拵」の刀で榎雪江戸京都会津にと何時も佩用し近くは井後家の当主哲一氏が日支事変佩用した。



〈写真六〉

哲五郎入門時の

伊庭道場の絵図

これにより、伊庭道場の稽古要領が分かる。

哲五郎明治廿二年自宅に之を模して道場、付属建物を建てて。昭和十五年まであったが老朽化したので撤去した。

〈写真七〉

表徳免状

夫れ心形刀流の儀数年片時も懈怠無く修行を加う。其の志の深き事寔に感心と爲す。故に先生より伝来の表徳常彰子與許す。早日、師範たる者は申すに及ばず、同門中遠慮無く差引之れ有るべき者なり。仍て免状件の如し

心形刀流九代
 伊庭常心子

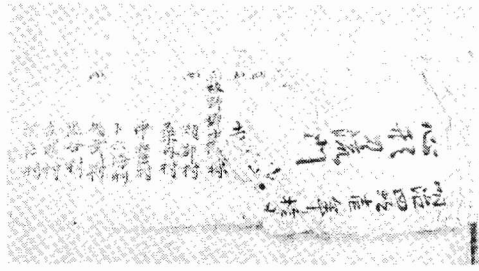
文久元年辛酉初夏の日

佐藤常志子

源秀俊花柳

十九、左、尾重三衛門、佐藤三郎（井後三郎）に与えた心形刀流の表徳「常志子」免状

心形刀流では印可を授けられると「常□子」と号することが伝統である。

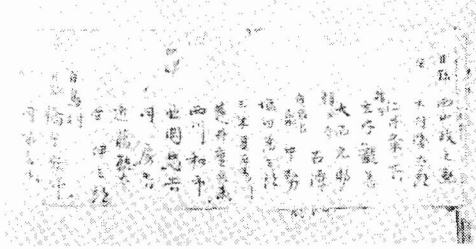


〈写真七〉

明治四十一年十月の

井後道場心形刀流門人帖

八十五枚の帖面は那賀、海部、名東、名西、麻植、美馬、三好、阿波、板野の各部の門人名が記入されておる。



〈写真八〉

「東讀、三木松、

白鳥の門人名」

現白鳥町、白武館長、橋本安信氏の御尊父安幸氏の名前が見える。



人物紹介（各支部より）

〈丹生谷支部〉

西谷 肇一（36歳・七段・那賀高校）

那賀郡驚敷町大字阿井に住む。小学五年の時亡父に連れられ故山家雪藏先生の門を敲き初めて剣道を習う。驚敷中学校が四国大会で優勝したチームの大将であった。この時剣の楽しさを知る。富岡西高校では松本一城先生に学び富西の一時代を画した。昭和四十五年国士館大学に入学、大学二年の時、東京都チームの先鋒として和歌山国体に出場した。大学卒業後は教員の道を進み富岡西高校次に新野高校そして那賀高校と勤務し、学業に、生徒指導に、剣道に精魂を傾け、上司同僚父兄より絶大な信頼を寄せられ、生徒よりは気はやさしくて力持ち、と親しまれ、敬慕されている。都道府県大会六回、国体四回、全日本選手権大会一回出場しその実力は誰しも認める所である。昼は高校で夜は少年剣道教室で後進を育て、絶えず高段者との錬成に血のにじむ精進を続けている。県剣道連盟常任理事・県高等学校剣道専門部長の職にある。

（吉田租記）

原田 勝（41歳・居合道教士七段・出原郵便局）

那賀郡上那賀町に生まれ、昭和四十年六月出原郵便局勤務、昭和四十三年より故大澤善二郎先生に初めて剣道と居合道を習う。昭和四十六年三段受領、昭和四十五年より昭和五十年まで大和錬心館少年部の指導を担任、健康体に恵まれ真面目で実行力あり、やさしさあり、子供達にたいへん好かれ、尊敬

されていた。居合道が好きで、昭和四十七年頃より居合道に専念、故下村富夫先生の指導を受く、昭和五十四年より高知県土佐山田町、故三谷義里先生に師事、六十年十一月七段、六十二年十一月教士号拝受、現在毎月十八日、二時間位後輩の指導に当たっている。練習は毎日行う事を目標に懸命に頑張っている。

（松本記）

〈阿波支部〉

川井 豊吉（55歳・無段・藤村製糸川田分場主任）

彼は高校時代柔道部に入り郷土の先輩湊八段の門下生として修練に励み卒業後も後輩の指導と自己の技を磨いていたが、その後長男が市場中学校に入学剣道クラブに籍を置き段々と力をつけるのを見て自分も剣道の興味を持つようになり市場剣道教室に入室し熱心に練習に励み強靱な身体と精神力で日毎に実力をつけてきた。更に他道場へも足を運び技を磨きその進歩向上は見るべきものがあり今では道場破りの川井さんとの異名をつけられている。このような剣士ながら、絶対に段、級位を取らない特別剣士である。

（現住所 阿波郡市場町大字上喜来字大門）

〈麻植支部〉

保田 善徳（80歳・教士・六段）

那賀郡相生町に生まれ、青年学校卒業後大阪造幣局に勤務、傍ら職員に剣道を指導する。第二次世界大戦には大陸に転戦、昭和二十年五月復員、山川町の開拓地に入殖、五〇アールの山地を開墾蜜柑園を造成、その後三〇ア

この水田を以得、現在農事は子息にまかせ、木刀の素振りを欠かすことなく悠々自適の毎日を送る。裸一貫、食糧難の時代、大半の入殖者が挫折するなか、空腹を抱えての開墾の苦勞を次のように語っている。「剣道に依って培われた気力のおかげであった」と。今日のように機械化されていない当時の開墾の苦勞は、現代の青少年には想像だにできないだろう。また、戦後占領軍の禁圧の方向にあった剣道の復活の兆しが見えた昭和三十五年、西川田消防詰所を道場に少年剣道の指導を始め、少年の育成を図り、山川町スポーツ少年団剣道部の基礎を作り、町内剣道同好者と交流して、山川町剣道の振興に尽くした。

吉岡 修一 (46歳)

熱心に修業を積む。氏の剣道歴は、昭和三十年より始めており剣道錬士六段、居合道五段を受領され、農業の担手として大変忙しい傍ら一週間の殆どを、剣道、居合道を修業しており、現在では剣道教室の指導等少年の健全育成の他合間には居合道と徹心道場の中心的人物である。

温厚誠実で居合道も剣道と同じ基盤、車の車輪のごとく、黙々と切磋琢磨し人間形成の道を行んでいる。
今後益々のご活躍を期待するものである。

〈三好支部〉

阿佐 力 (35歳・四段・農林省統計情報事務所)

昭和四十六年三好農林高校を卒業、香川県三豊郡の統計情報事務所にて奉職、近所の養心館道場にて井下降廣八段範士に師事し、けい古に励んでおりましたが、昭和四十九年より転勤のため約四年間けい古も出来ずしました。昭和

五十三年隣町の池田事務所に勤務を命ぜられたのを機会に井川町武道会に入門しけい古に励むかたわら少年指導に敏腕を振って居り又井川町武道会の剣道部長並びに県連三好支部事務局として活躍されて居ります。尚本年こそはと五段を目ざしてけい古に励んで居ります。

島尾 眞旦 (39歳・初段・山城消防署)

昭和四十二年池田高校卒業し山城消防署勤務、現在次長として活躍して居ります。剣道の出合いは三人の子供達を連れて道場に入入り剣道の魅力に取り付かれ、又自分の健康管理にと三十七歳より子供達と一緒にけい古を始め。以後寸暇をおしんで、素振をするなど、持前の気力で努力され昭和六十二年初段に合格現在山城クラブの副会長として又三好支部会員として子供達の世話をしながらけい古に意欲をもやして頑張って居ります。

〈名西支部〉

加藤 泰男 (39歳・二段・会社員)

泰文小学校六年生、正司、四年正、大地一年生の三人の子供を連れて徳島右水道館で稽古に余念のない三十九歳実年の剣士が居ります。高校卒業と共に大阪の問題屋に就職したが、一時心臓病で約七年間医者と仲よくし、発作が起きれば救急車にお世話になる状態であったが子供が剣道を始めた頃から自分も竹刀を握り子供と共に基礎訓練を受けるうちに剣道に魅せられて、自分の可能性を追求して確実に一步一步と前進を続けている人が居ます。子供の成長とともに健全な剣道の発展に寄与している姿にただただ頭が下がる思いがします。当面の目標を三段に努力しています。

〈板野支部〉

三木 高雄（53歳・五段・居合五段・薬品販売業）

何をやっても如何に継続し初志貫徹することが大切であるが、三木先生は地元の子供会の市川会長より声をかけられたことが縁となって少年の非行防止と健全育成を目ざし竹重教育長や笹田柿原小学校長の援助を得て、吉野町柿原子供会剣道クラブを結成し、その当時の昭和四十七年五月頃は少年剣士僅か七名であったが、柿原小学校体育館で叔父に当たる鴨島町知恵島表菜三木虎雄先生と共に少年の指導に当り剣の道に情熱をかたむけ、父兄の信頼を受けて来たが、その後間もなく三木虎雄先生は勇退し、独立独歩の道を辿り次第に参加する少年も多くなって来た為、吉野町中心地に在る吉野中学体育館で水・土曜の夜間に少年達を指導し今日に至っており、発足以来約二五〇名余りの少年達に父兄等の成人を養成し、そのうち有段者約四〇名（内女子十名位）を門下より出しており、その指導力と人柄は町民の認めるところとなっている。昭和五十八年の二年間は柿原小学校のPTA副会長をしていたこともあって当校長より依頼を受け、毎日朝礼前の早朝に運動場で六年生全員に木刀による素振り、打込みをさせ児童の心身の育成に努め父兄に感謝されたものである。自営の薬品配製販売をし乍ら三十二歳頃から剣の道に入り、剣道と併せて居合にも励み、地道で中断することなく少年等を剣の道を通して、ひたすら育成し後継者教育することが今や信条となっている。薬の販売業をしながらの指導であり時には営業が片手間となることも少なくないが、過去に剣道大会を地元で開催し町長より感謝状を授与されたこともあり、発足以来十七年に涉って精進し、最近では吉野少年剣道教室として少年二〇名成人七名を擁し、その剣道に体する情熱は正に賞賛に値するものである。

（文責、板野西支部長、岡島）

岡島 茂雄（66歳・五段・錬士・行政書士）

紅顔の少年時代の十八歳の頃、私は兵庫県明石市の港近くに在った石油店へ住込み奉公していたが、その頃仕事終いをした夜間に近くの町道場へ行き、覗き見して、その積極的な練習の勇しさに魅せられ、何かにつけて辛抱強さの無い自分を叩き直そうと思ひ、練習に通い始めたのが、そもその剣道との出逢いでありました。基本練習で右手に力が入り過ぎ、力ずくで掛かりけい古をした私を倦まず、あかず打たせてくれた先生や大先輩の指導は未だ忘れられることの出来ない懐かしい憶い出となっています。その後の剣歴としては、大東亜戦争中に海軍へ整備兵として入隊し、佐世保市、鹿ノ屋市等の教育分隊へ配属し銃剣術と共に剣道にも励みましたが、終戦後は昭和二十年九月二十五日に徳島県の警察官となり鳴門を駆け出しに阿南市、池田、川島署等で勤務しましたが、在動中に剣道を通じての知人、友人が出来、又大先輩の先生より指導を受けて参りました。鳴門署で居た当時は現県連盟会長の堀江先生のご指導を受けたことや、阿南市の中大野駐在所に居た頃は現範士の清原先生や遠藤先生のご指導を受け三段に合格したこと等、忘れ得ない憶い出となっています。昭和五十五年に五段を四度目に合格し、その後、六段審査に挑戦中であり、京都、東京へと毎年のように行き、受験しており昭和六十二年度で五度目の審査を受けましたが、お陰で他府県の知人が出来まして年賀状を出す等しています。受験毎に剣の道の何かを与えられ、階段を一步上がるような心境で円満な徳性の体得を目ざし、又健康管理のため、心技一体の修練に努めている昨今であります。

（板野西支部長）

〈海部支部〉

山崎 直光（34歳・四段・西沢電化センター）

小学六年の時、従兄弟が中学校で剣道をしていたので、練習を見たり、竹刀の手入れの仕方を知ったりしているうちに、剣道をやってみようと思ひ、中学に入ると、すぐに、剣道部に入部しました。

当時、若松修作先生が、指導にいられていました。先生は、剣道の実技だけでなく、学科も、体育も教えてくれました。それに、キャンプや、日和佐の練習試合の帰りに、海亀の産卵を見につれていってくれたり、楽しい思い出を与えてくれました。それに、一年生、三年生の時、丸岡俊邦先生にも、指導してもらいました。おかげで、試合の方も、団体で、海南第一中学校のA・Bが優勝を争うようになり、県でも二位に輝き、高松の四国大会に出場させてもらいました。そのメンバーの一人に、現在富岡東高校で活躍されている河田清実君がいました。

高校、大学と剣道を離れていましたが、地元で、就職して、仕事にも慣れて来たころ、若松先生から、西山勝喜先生が、剣道の練習をやりたいので、メンバーを集めてほしいと頼まれ、中学時代の仲間三、四人で、西山先生の指導をうけながら、中学校の体育館をかりて、週二回練習を始めました。

その内、近所の小学生を誘い、指導するようになり、現在の海部川剣道教室が出来ました。今では、小学生の人数も増え、海部川剣道教室、浅川少年剣道教室、黒潮クラブ、西山錬心館の四つの教室に分かれるほどになりました。

また、一般の方でも、由岐、日和佐、牟岐、海南、海部と、各剣道教室の先生方との、月一回の合同練習が出来るようになり、剣道仲間が増え、楽しく剣道が、続けられています。

今、一つの願いとしては、自分の指導させていただいた子供達が、一人でも多く、社会人になっても、剣道を続けてくれことです。

〈鳴門支部〉

河野 照雄（89歳・教士・六段）

麻植郡鳴門町西麻植出身、現鳴門市撫養町黒崎居住。

東洋大学卒、在学中大島治喜太範士の指導を受け、剣道部主将として活躍する。板野郡松茂公民学校、撫養高校、鳴門高校教諭を歴任、数多くの剣士を指導育成する。又戦後の剣道再建のため尾形郷（教士と共に尽力し剣道発展に貢献される。昭和二十九年五月剣道教士号をうく。現県剣道連盟相談役）

竹内佳代子（26歳・五段・旧姓寺西）

小学二年生から父慶裕教士七段の指導で剣道をはじめ。城北高校時代（二段）四国高校総体優勝。筑波大学一年（三段）の五十五年全日本女子学生剣道選手権大会第三位、五十八年関東女子学生剣道選手権大会優勝。昨年八月岡山で開かれた全日本教職員剣道大会で優勝。県勢として初の日本一に輝いた。また県下女子剣道大会では連続七回優勝の戦績をのこしている。現穴吹中学校教諭。鳴門市出身。

剣道随想

宮本武蔵思考(一)

直心館館長小松島支部長 田村直一

古人を観るのは、山を観るようなものである。観る者の心ひとつで、山がありかたは千差万別する。山に対して、山を観るがごとく時をへだてて古人を観る。興味はつきない。過去の空には、古人の群峰がある。そのたくさんな山影の中で、宮本武蔵は、私の好きな古人のひとりである。剣という秋霜の気が、その人の全部かのように荆々しく思われてきたが、武蔵の仮名文字にみられる、優雅なおい、やさしさ、細やかさ、虚淡な美を、剣を持つ指の先から書きながす人は数少ない。……と、吉川英治氏は、宮本武蔵記にかいている。

剣をとおして彼は人間の凡愚と菩提を見、人間という煩惱のかたまりが、その生きるための闘争本能が、どう処理してゆけるのか死ぬまで苦勞してみた人だ。乱麻殺伐な時風に、人間を斬る具とみなされていた剣を、同時に仏光ともなし愛の剣ともして、人生の修羅なるものを、人間苦の一つの好事情を、哲学してみた。剣を……一つの「道」にまで精神的なものへ引き上げたのが武蔵であると賞める。眸が琥珀色だった。六尺近くも背があった。生涯六十何度かの試合に勝ちとおした。一生妻も取らず、晩年は髪もくしげずらず湯に入らず——心の垢はそつぐとも身の垢はそそぐによしなし。猶こころをくだく。ずい分孤高狷介の人にちがいがなかったけれど、今日残っている画や書や調刻品などからは称えようもない気品がうかがへると。

私もいつの頃からか武蔵にこころひかれて武蔵の伝書、小説など数多くよみ、また、武蔵の縁りの地を旅して歩いた。

吉川英治氏の小説宮本武蔵は昭和十五年、国境守備に従軍した旧満州虎林

の陣中でよく讀んだ。

・NHKの鈴木健二氏によると、日本の歴史の中で、一介の浪人武者でありながら武蔵ほど騒がれる人物が他にいないであろうか……と。すべては著者である吉川英治氏と武蔵の時間をへだててのめぐりあいの結果であると、いいきる。

おもうに人と人との出会いが、双方または一方の人格に大きな影響を与えることは数限りなくあるが、私がかの小説をよんで感動したのは、あくまで「求道」という武蔵観である。武蔵の伝記、史料、遺蹟、口碑、遺墨など、そのままの物を素材のままならべられ、史実からみた小説であると私はおもうのであるが、鈴木健二氏は「とにかくトクをしている男……武蔵である」とし、その理由を次のように述べられているのである。

宮本武蔵に類似している人に織田信長があるが、信長をふかく尊敬し、信長のように生きてみようとする人は少ないだろう。末期が非業であったせいもあるが、行動のしかたが一種天才的で、凡人ではついてゆけないからである。武蔵も同じである。更に武蔵について①佐々木小次郎と決闘したこと。②独特の画風などを多く残していること。③五輪書をものした。……ことぐらいてあるにもかかわらず彼は少なくとも日本の男の心のどこかに、二刀を構えた姿勢でじっとたたずんでいるのである。とにかくこれは吉川氏の小説が美学的原則に基づくものであることに起因していると指摘している。

つかみどころのない性格——それが武蔵。

——それは禅のわかりにくさと同一であろうか。武蔵の幻影が、私には、そこはかとなきロマンを感じさせ、男の壮烈な生き方として力強い憧れをそこに抱き、ひろく求道者の大先達として深く私は敬仰している。

・歴史学の奈良本辰也氏は、武蔵は無類に強い男であったが、しかし、その勝ち方はあまり好きでない。巖流島の決闘に至るまでの強さだけを誇る武蔵には付いてゆけない。しかし晩年の武蔵はついに人間として哲学の道に辿りつく、一種の禅的な悟りがある。……と

・「その後なおもふかき道理を得んと朝夕鍛練してみればおのづから兵法の道にあふ事われ五十才の比なり」と、五輪書にあるとおり

・兵法を通じて悟るところがあったということ。その点が秀でて好きであ

り、残された美術品などからはいづれも鋭さが光り、気品が溢れ、技でなく『こころ』がにじみ出ている。
このようにひろく諸芸、諸能に達していることは万能の天才といわれる所以であろう。

◎ 現在、岡山県英田郡讃甘村大学宮本（現大原町）という所が生まれた郷土である。私は先年夏の頃この地に旅した。宮本村は美作と播磨の山々に囲まれた盆地で岡山県の東北のはずれ、兵庫県の境にある。この村に行くには、姫新線で佐用に出、そこから国道三七三号線をバスで約一時間で行ける。吉川英治の文中に「山また山」という言葉があるが、それは播州龍野口からの山道をいい、即ち作州街道がそれである。その街道に沿って南北一・五軒、一東西一軒という盆地の南東の端の地が武藏の生まれたところである。

バス停の近くに、文学博士三島毅氏が碑銘を、またもとの熊本藩主細川護成氏が「宮本武藏生涯之地」と題字をかいた立派な石碑が（大正元年十月に除幕）大きな銀杏の樹の下に建立されている（写真参照一）その横が生家で、宮本川をへだてて荒巻神社（讃甘神社）の森と相對している。

武藏の父が仕えていたという新免伊賀守の居城跡竹山城（写真参照二）は、生家からは一、五軒北に在り、南北に流れる吉野川の向かいの山稜（標高四三〇米）に、その石垣を残している。城の南側は一面の竹藪、これが竹山城の名の由来である。

武藏の祖父は播磨の名族赤松氏から出ていて、祖父平田将監は竹山城下の下の庄に住んでいた。将監の子が無二斎、十手術に長じ、家老をつとめた。無二斎の時に宮本の地に、約千坪の「宮本の構え」とよばれる広い屋敷の中に道場を持ち剣の師範をもつとめ高名であった。

昭和四十三年八月十日劍聖武藏を記念して建てられた剣道場を拝見させて頂いた（写真三参照）剣道場からは道をはさんで少し行くと、さぬも峠にかかる道の右側に武藏神社がある。

鳥居脇に武藏の直筆「戦氣 寒流帯月澄如鏡」書を拡大刻字した大きな石碑が立てられ、境内には外にも武藏と戦って敗れた佐々木小次郎ほか六十余名の霊を弔う五輪塔や、自戒のことばである「独行道」の筒條を刻ん

だ碑も在る。

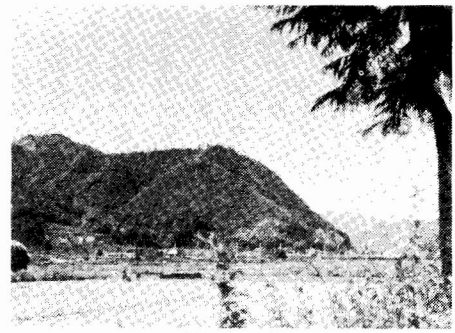
神社から坂道を登る。鎌坂峠から中山を経て播州にぬける古道である。若き日、武藏が友人本位田又八とともに槍一本引下げて関ヶ原戦に向かったのも、お通が武藏を追って宮本の里を出奔したのもまたこの山道をとどめたものであろう。

若き日の武藏をおもいつつ峠の道を登ってみた。山裾を階段状に開いた水田の間をぬって道は上ってゆく、百日紅が炎天下に薄紅の花をつけていた。私は林の中に入り停止し静寂の中でしばし黙想した。

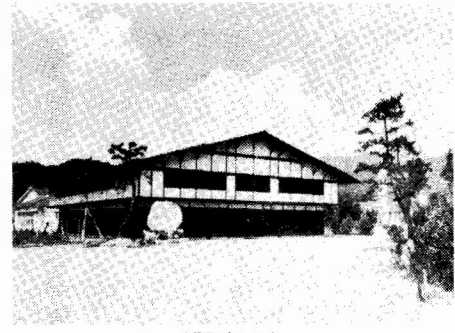
（つづく）



（写真1）



（写真2）



（写真3）

昭和62年度

戦いの跡

〔県内〕

◆第10回県居合道段別選手権大会

(4月5日鳴武)

- ▽初段 ①早川幸男 ②満寿良史
- ▽二段 ①高野康寛 ②松田明治
- ▽三段 ①斎藤吉明 ②田中浩一
- ▽四段 ①西山光次 ②坂本憲一
- ▽五段 ①吉岡修一 ②青山善雄

◆第12回会長杯高校剣道大会

(4月19日徳農体)

- ▽1回戦 城ノ内3-1城東、新野3-2宍喰商、阿波4-1日和佐、城南4-1生光、徳商3-2徳工、池田3-2城北、市立4-1板野、鳴工4-1東工
- ▽2回戦 富西3-12城ノ内、小松島2-0新野、阿波2(内容勝ち)2徳農、城南3-1脇町、川島5-0徳商、富東4-1池田、阿工3-2市立、那賀4-1鳴工

表勝ち)2富西、城南4-1阿波、富東4-0川島、阿工3-2那賀

▽準決勝

- 小松島3-2城南
- 阿工3-2富東
- ▽3位決定戦
- 富東4-1城南
- 阿工3-2小松島
- 春木メ反-コ富田
- 川下メメ-ド西田
- 森-コメ和田
- 勝瀬-ドコ南谷
- 小川-コ井上

○小川

▽1回戦

- 城東4-1徳工、小松島4-1城ノ内
- ▽2回戦 富東5-0城東、日和佐5-0鳴門、城南4-1宍喰商、生光3-2城北、脇町5-0徳商、川島5-0池田、新野3-1市立、富西2(内容勝ち)2小松島
- ▽準々決勝 富東5-0日和佐、生光4-1城南、脇町3-2

川島、富西3-0新野

▽準決勝

- 富東5-0生光
- 脇町3-2富西
- ▽3位決定戦
- 富西2-1生光
- △決勝(内容勝ち)
- 富東4-1脇町
- 折上-コメ加藤
- 西岡-ド米倉
- 河野-メ川人
- 楠-メ井内
- 林-メ福島

◆第11回中四国医科学学生剣道大会

(4月26日徳大体)

第十一回中四国医科学学生剣道大会は二十六日、徳島大体育館で男子十校、女子八校が参加して行い、徳島大が男女アベック優勝(男子七年ぶり二度目、女子初)を飾った。

【男子】

- ▽決勝リーグ
- ①徳島大2勝 ②高知医大1勝1敗
- ③香川医大2敗

【女子】

- ▽決勝
- 徳島大1-1鳥取大

(本数勝ち)

◆第27回県高校総体剣道競技

(6月6-8日徳農体)

第1日目

【男子】

- ▽1回戦 城北4-1鳴商、市立5-0宍喰
- ▽2回戦 富西3-2城北、徳農3-2三好、海南3-2新野、城南4-1鳴工、川島5-0阿商、阿波3-2池田、鳴門4-1鴨商、小松島4-1日和佐、那賀5-0水産、城東3-2徳商、徳工3-1穴吹、富東5-0板野、脇町4-1名西、東工3-2生光、城ノ内4-1貞工、阿工5-0市立

【女子】

- ▽1回戦 辻4-1徳工、城北3-12城東、池田4-1阿波、名西4-1宍喰、穴吹3-2鳴門、小松島5-0海南、市立5-0鴨商、徳商3-2城ノ内
- ▽2回戦 富東5-0辻、日和佐3-2城北、川島5-0池田、生光4-1名西、富西5-0穴吹、小松島4-1城南、市立3-2新野、脇町5-0徳商

第2日目

【男子】

- ▽3回戦 富西4-1徳農、城南4-0海南、川島4-0阿波、小松島

5 0 鳴鶴、宮賀 3 2 坂東、富東
4 1 徳工、脇町 4 1 東工、阿工
4 1 城ノ内 ▽準決勝 富西 3 1
2 城南、川島 3 1 2 小松島、富東 4
1 1 那賀、脇町 3 1 2 阿工
富西、川島、富東、脇町が決勝リ
グへ。

【女子】
▽準々決勝 富東 5 1 0 日和佐、川
島 4 1 1 生光、富西 3 1 1 小松島、
脇町 3 1 2 市立
富東、川島、富西、脇町が決勝リ
グへ。

第3日目

【男子】
▽決勝リーグ
富西 4 1 1 脇町 富東 4 1 1 川島
富東 4 1 0 脇町 富西 3 1 2 川島
川島 5 1 0 脇町 富西 3 1 2 富東
▽順位 ①富西 3 勝 ②富東 2 勝
1 敗 ③川島 1 勝 2 敗 ④脇町 3 敗
【女子】
▽決勝リーグ
富東 4 1 0 脇町 川島 4 1 1 富西
富東 3 1 1 富西 脇町 4 1 1 川島
富西 5 1 0 脇町 富東 2 1 1 川島
▽順位 ①富東 3 勝 ②富西 1 勝
2 敗 ③川島 1 勝 2 敗 ④脇町 1 勝
2 敗 ⑤ 2 4 位は勝者数による。

【男子個人】

▽決勝リーグ
①山田真也(川島) 3 勝 ②佐藤
(生光) 2 勝 1 敗 ③島田(富西)
1 勝 2 敗 ④南谷(小松島) 3 敗
【女子個人】
▽決勝リーグ

①林美枝(富東) 3 勝 ②河野(富
東) 1 勝 2 敗 ③楠(富東) 1 勝 2
敗 ④喜多(新野) 1 勝 2 敗 ⑤ 2 4
位は勝本数、決定戦による。

◆第16回県中学校剣道選手権

(6月14日鳴鶴)

【男子】
▽1回戦 松茂 3 1 1 山城、阿南 2
1 0 日和佐、穴吹 2 1 1 北島、川内
3 1 1 大麻、加茂谷 3 1 2 平谷、阿
南 4 1 0 南部、池田 4 1 0 勝浦、
新野 3 1 0 宍神、藍住 5 1 0 入田、
脇町 4 1 1 坂野、上八万 2 (代表勝
ち) 2 貞光、羽浦 4 1 0 加茂名、徳
島 4 1 1 半田、那賀川 2 1 1 鳴門二、
高浦 4 1 1 富田、牟岐 2 1 1 城東、
文理 1 (代表勝ち) 1 板野、小松島
4 1 1 北井上、山川 3 1 2 池田、鳴
門 3 1 0 川島、石井 5 1 0 上板
▽2回戦 木頭 3 1 2 松茂、阿南 3
1 2 穴吹、附属 3 1 0 川内、海南 2
(本数勝ち) 2 加茂谷、鷲敷 3 1 1

河内 1、城西 3 2 池田一、藍住 4
1 0 新野、相生 4 1 0 脇町、阿波 5
1 0 上八万、羽浦 3 1 2 徳島、那賀
川 4 1 0 高浦、鴨島 1 5 1 0 牟岐、
市場 5 1 0 文理、小松島 2 1 1 八万、
山川 2 (本数勝ち) 2 鳴門一、宮浜
3 1 0 上板 ▽3回戦 阿南 3 1 2
木頭、海南 4 1 1 附属、鷲敷 5 1 0
城西、相生 4 1 1 藍住、阿波 4 1 0
羽浦、鴨島 1 2 1 1 那賀川、市場 4
1 1 小松島、宮浜 3 1 1 山川 ▽準々
決勝 阿南 2 1 1 海南、相生 2 1 1
鷲敷、鴨島 1 2 1 1 阿波、市場 1
(代表勝ち) 1 宮浜

▽準決勝
相 生 2 1 2 阿 南
(本数勝ち)
鴨 島 1 3 1 1 市 場

▽決勝
相 生 2 1 0 鴨 島 一
登 生 2 1 0 笠 井
○川 原 コ ー 田 村
○湯 浅 メ コ ー 北 川 剛
殿 谷 ド ー コ 植 木
谷 崎 メ ー メ 北 川 忠
【女子】
▽1回戦 阿波 5 1 0 松茂、城東 4
1 0 池田一、鴨島 1 3 1 1 羽浦、日
和佐 4 1 1 入田、阿南 1 3 1 2 北島、
穴吹 2 (代表勝ち) 2 加茂谷、海南

5 0 上板、山川 4 1 城西、那賀
川 4 1 0 川内、小松島 2 (代表勝ち)
2 加茂名、富田 5 1 0 脇町、市場 3
1 2 南部、上八万 3 1 2 石井、附属
4 1 0 板野、勝浦 4 1 1 北井上、木
頭 5 1 0 阿南 ▽2回戦 阿波 4 1
0 城東、鴨島 1 4 1 1 日和佐、穴吹
3 1 2 阿南一、山川 3 1 2 海南、那
賀川 5 1 0 小松島、市場 4 1 1 富田、
上八万 2 1 1 附属、木頭 5 1 0 勝浦

▽準々決勝 阿波 3 1 2 鴨島一、
山川 3 1 2 穴吹、那賀川 3 1 2 市場、
木頭 3 1 1 上八万
▽準決勝
阿 波 3 1 1 山 川
木 頭 2 1 1 那 賀 川

▽決勝
木 頭 3 1 1 阿 波
○小藪香 コメ ー 岩 本
小藪千 コ ー メ 吉 村
前 浦 ー メ 福 原 ○
○谷 ドコ ー 中 野
○小藪美 メメ ー メ 米 倉
◆四国高校剣道選手権
(6月20・21日徳農体)
第1日目
【男子団体】
▽予選リーグA組 新田 3 1 1 高知
工、高松東 2 1 0 高知工、新田 5 1
0 脇町、脇町 3 1 2 高松東 ▽B組

富西 4-1 高松、山田 3-0 今治
 西、山田 3-1 高松、富西 5-0 今治
 治西 ▽C組 宇和島東 2 (本数勝
 ち) 2 高知、富東 5-0 三本松、宇
 和島東 3-1 富東、高知 3-2 三本
 松 ▽D組 琴平 5-0 川島、松山
 西 3-2 高知商、川島 3-1 松山西、
 琴平 4-1 高知商
 各組とも予選リーグ 3 回戦のうち
 2 回戦まで終了。

【男子個人】

▽準々決勝
 細 木 メメー 五 島
 (土佐) (明德)
 松 下 メー 山 本
 (琴平) (高知)
 銭 谷 メドー 石 川
 (高松北) (高松東)
 中 井 コー 小 笠 原
 (尺誠) (高知工)

▽準決勝

松 下 メー 細 木
 銭 谷 メメー 中 井
 ▽決勝
 松 下 メメー 銭 谷

【女子団体】

▽予選リーグA組 明德義塾 4-1 1
 松山商、富西 4-1 尺誠学園、松山
 商 3-2 富西、明德義塾 4-1 尺誠
 学園 ▽B組 高松南 4-1 1 川島、

川島 3-1 1 済美、高松南 4-1 1 大杉、
 済美 3-1 1 大杉 ▽C組 宇和島東
 4-1 1 中村、高松 1-3 1 中村、宇和
 島東 4-1 1 脇町、高松 1-2 (本数勝
 ち) 2 脇町 ▽D組 富東 5-0 3
 本松、高知商 3-1 1 新居浜東、高知商
 3-2 3 本松、富東 5-0 0 新居浜東
 各組とも予選リーグ 3 回戦のうち
 2 回戦まで終了。

【女子個人】

▽準々決勝
 楠 メメー 町 田
 (富東) (明德)
 谷 川 ドー 山 本
 (高松二) (生光)
 伊 井 メー 竹 内
 (宇和島東) (高知)
 西 岡 ドー 松 田
 (明德) (高知商)

▽準決勝

楠 コメー 谷 川
 西 岡 コロー メ 伊 井
 ▽決勝
 楠 コメー 西 岡

第2日目

【男子団体】

▽予選リーグA組 高知工 2-2 脇
 町、新田 5-0 0 高松東 ▽順位 ①
 新田 3 勝 ② 脇町 1 勝 1 分け 1 敗

③ 高松東 1 勝 2 敗 ④ 高知工 1 分
 2 敗

▽B組 今治西 3-2 高松、山田 3
 -1 富西 ▽順位 ① 山田 3 勝 ②
 富西 2 勝 1 敗 ③ 今治西 1 勝 2 敗
 ④ 高松 3 敗
 ▽C組 宇和島東 3-2 3 本松、富
 東 3-2 2 高知 ▽順位 ① 宇和島東
 3 勝 ② 富東 2 勝 1 敗 ③ 高知 1 勝
 2 敗 ④ 3 本松 3 敗
 ▽D組 川島 3-2 高知商、琴平 3
 -2 松山西 ▽順位 ① 琴平 3 勝
 ② 川島 2 勝 1 敗 ③ 松山西 1 勝 2 敗
 ④ 高知商 3 敗

▽準決勝
 宇和島東 3-1 1 琴 平
 新 田 3-1 1 山 田
 ▽決勝
 新 田 3-2 宇和島東
 新田は六年ぶり九度目の優勝。

【女子団体】

▽予選リーグA組 松山商 4-1 尺
 誠学園、富西 3-2 明德義塾 ▽順
 位 ① 明德義塾 2 勝 1 敗 ② 富西 2
 勝 1 敗 ③ 松山商 2 勝 1 敗 ④ 尺誠
 学園 3 敗 1 1 3 位は勝者数による。
 ▽B組 川島 3-1 1 大杉、高松南 4
 -1 済美 ▽順位 ① 高松南 3 勝
 ② 川島 2 勝 1 敗 ③ 済美 1 勝 2 敗
 ④ 大杉 3 敗

▽C組 中村 3-1 脇町、高松 1-3
 -2 宇和島東 ▽順位 ① 高松 1-3
 勝 ② 宇和島東 2 勝 1 敗 ③ 中村 1
 勝 2 敗 ④ 脇町 3 敗

▽D組 三本松 4-0 新居浜東、富
 東 4-1 高知商 ▽順位 ① 富東 3
 勝 ② 高知商 2 勝 1 敗 ③ 三本松 1
 勝 2 敗 ④ 新居浜東 3 敗
 ▽準決勝
 富 東 3-1 1 高 松 一
 高 松 南 3-1 2 明 德 義 塾
 ▽決勝
 富 東 3-1 2 高 松 南
 ○ 近 藤 コー 本 田
 折 上 メー コ コ 高 橋 ○
 河 野 コー コ 国 村 ○
 ○ 楠 コメー 山 本
 ○ 林 メメー 井 原
 富東は初優勝。

◆第24回高専総合体育大会

(7月20日阿南高専)

【剣道】

▽個人 ① 二反田和則(阿南)

◆第41回県中学校総体剣道競技

(7月26日城西中)

【男子団体】

▽1 回戦 池田 3-2 徳島、入田 3
 -1 勝浦、脇町 3-1 三野 ▽2 回

戦 宮浜5-0 池田、坂野3-2 海
南、木頭5-0 貞光、阿南3-2 嶋
島一、阿波4-1 入田、藍住3-2
鳴門一、附屬2 (代表戦勝ち) 2 高
浦、相生4-0 脇町 ▽準々決勝
宮浜4-1 坂野、木頭5-0 阿南、
阿波4-0 藍住、相生4-1 附屬

▽準決勝
木 頭 2-2 宮 浜
(本数勝ち)
阿 波 2-1 相 生
▽決勝
木 頭 2-1 相 生
松 岡 コーメ 登 生
○中野メメー 川 原
○田中メメー 湯 浅
照 原 メー ドド 殿 谷○
谷 沢 ー ー 谷 崎
木頭は10年ぶり3度目の優勝。

【個人三年】
▽3位決定戦
森 メドー 井 内
(藍住)
▽決勝
笠 井 メメー 呉 羽
(鴨島一) (阿南二)

【二年】
▽3位決定戦
矢 代 メドー 櫻 原
(藍住) (市場)
久 田 ドー 磯 部
(阿南) (那賀川)
【一年】
▽3位決定戦
山 室 メー 住 吉
(藍住) (八万)
▽決勝
植 木 メメー メ 川 西
(鴨島一) (阿南一)

【女子団体】
▽1回戦 阿波5-0 鳴門一、勝浦
5-0 石井、日和佐3-2 小松島、
那賀川4-1 加茂名、山川4-1 附
屬、穴吹4-1 松茂、富田2 (代表
戦勝ち) 2 山城、木頭3-1 阿南一
▽準々決勝 阿波4-0 勝浦、那
賀川5-0 日和佐、穴吹3-2 山川、
木頭5-0 富田
▽準決勝
阿 波 2-2 那 賀 川
(本数勝ち)
木 頭 4-1 穴 吹
▽決勝
木 頭 2-2 阿 波

○小藪メー 米倉
木頭は初優勝。
【個人】
▽3位決定戦
岩 本 メコー 福 原
(阿波) (阿波)
▽決勝
小 藪 メー 米 倉
(木頭) (阿波)

◆第5回教員・警察・実業団対抗剣
道大会 (8月2日徳武)
警 察 13-2 実 業 団
○吉田茂 コー 岡山
○田村メコ 仁 木
○佐賀メ反 佐藤佳
○平野メコ 大 津
○平尾 藤井直
○吉田博 ドメ 片 山
○青木 コメ 高 木
○四宮 ー 熊 沢
○吉田彰 メメ 元 木
○吉田昌 メー 藤井利
○近藤 メコ 青 木
○米倉 コ反 来 代
○藤本 ー コメ 佐藤吉○
○那倉 ココ ー 原
○藤川 ココ ー 北 條
○出葉 メメ ー 植 田
○美馬 コー ー 柏 原○

教 員 6-9 警 察
○白木ド 吉田茂
○曾根 ー 田 村
○本村 ー 佐 賀 一
森
○白木 メツ 平 野
○福多 コ 吉田博
○本田 コ 青 木
○柴田 コ 四 宮
○喜多 メ 吉田彰○
○叶井 ー 吉田昌○

○吉田昌
○吉田彰
○吉田博
○青木
○四宮
○吉田彰○
○吉田昌○

○吉田彰
○吉田昌○
○吉田博
○青木
○四宮
○吉田彰○
○吉田昌○

○吉田彰
○吉田昌○
○吉田博
○青木
○四宮
○吉田彰○
○吉田昌○

中原 ーメメ 近藤 ○
 加藤 メーコメ 米倉 ○
 富田 ーメコ 藤本 ○
 ○石井 コメー ド 那倉
 藤井 ーメメ 藤川 ○
 ○谷崎 メメー 出葉
 沢井 ー 美馬

▽順位 ①警察2勝 ②実業団1勝
 1敗 ③教員2敗

◆第27回武道館開館記念武道大会

(8月9日徳武)

【剣道】

①鳴門高OB (岩木、佐賀、端村)
 ②阿波支部 ③丹生谷支部 ③川島
 剣友会B

◆第18回県少年剣道錬成大会

(8月16日鳴武)

【団体】

①大野小 ②鴨島少年剣道館 ③橘
 少年剣道教室 ③徳島錬心館

【個人】

①赤井秀司 (新開剣道ク) ②佐野
 (北井上剣道教室) ③本田 (徳島少
 年剣道教室) ③松村 (入田錬成会)

◆第12回県下剣道段別選手権大会

(8月30日鳴武)

【男子】

▽初段 ①長井 薫 ②高田勝弘
 ▼二段 ①松永貴史 ②佐藤光太郎
 ▼三段 ①合田洋之 ②吉田茂生
 ▼四段 ①平野誠司 ②佐賀博志
 ▼五段 ①吉田博文 ②平尾満紀
 ▼六段 ①近藤 亘 ②吉田昌彦

【女子】

▽初段 ①米倉聰子 ②吉岡久美子
 ▼二段 ①掠下まゆみ ②芝橋奈美
 ▼三段以上 ①寺西佳代子 ②手塚
 十三子

◆第34回四国管内剣道大会

(9月4日鳴武)

▽リーグ戦 ①愛媛3勝 ②徳島2
 勝1敗 ③香川1勝2敗 ④高知3
 敗

◆第2回県高齢者剣道大会

(9月15日徳武)

【団体】

▽1回戦 板野3ー0 徳島B、阿南
 3ー2 鳴門 ▼準決勝 板野2ー2
 名西 得点数による、徳島A 2ー1
 阿南
 ▼決勝 徳島A 4ー0 板野

○西野 ドコー 糸谷

○伊原 コメー 出口

○石井 ドコー 三木

【個人】

▽70歳以上 ①三木只雄 ②蝦名
 ③出口 ③山田
 ▼65歳以上70歳未満 ①勝浦守
 ②早川 ③堤 ③前林

▽60歳以上65歳未満 ①遠藤一美

②株木 ③浜田 ③高田

◆第32回阿南県下剣道大会

(9月27日阿南工)

【小学校】

①大野小 ②阿南少年剣道教室
 ③徳島錬心館
 【中学男子】
 ①鴨島第一 ②木頭 ③市場

【同女子】

①木頭 ②海南 ③勝浦
 【高校男子】
 ①富東 ②富西 ③川島

【同女子】

①富東 ②富西 ③川島
 【一般】
 ①讃志会 ②阿南支部A ③徳島刑
 務所

◆第16回県社会人剣道大会

(10月4日鳴武)

▽決勝トーナメント1回戦 阿南支
 部A 3ー1 徳大医OB、徳農剣友会

3ー2 阿南支部B、鳴高剣友会 2
 (得点差) 2 阿南支部B、小松島支
 部 3ー2 阿南支部E

▽準決勝

阿南支部A 4ー1 徳農剣友会
 小松島支部 3ー0 鳴高剣友会

▽決勝

小松島支部 2ー1 阿南支部A
 田村 ー 村井
 熊沢 ー 中山
 ○本田 メー 河田
 沢井 ーメメ 北條○

○中山 ドメー ド 株木

◆第8回県女子剣道大会

(10月18日鳴武)

【高校団体】

▽1回戦 富西B 2ー0 徳商A、城
 東 3ー0 海南、市立 2ー1 徳商C、
 脇町C 3ー0 城北、日和佐 2ー0 鳴
 門、徳商B 1 (本数 4ー3) 1 脇町
 A、富西A 1ー0 生光 ▼2回戦
 富西B 1ー0 脇町B、市立 2ー1 城
 東、脇町C 3ー0 日和佐、富西 3ー
 0 徳商B
 ▼準決勝

市立 2ー1 富西B

脇町C 1ー0 富西A

◆第2回高校剣道選手権大会 (11月8日徳農体)

種 岡 メ 近 藤

富西 A 2 | 1 富西 B

▽決勝 0 右武館、小松島教員2 | 1 徳大 C

▽3位決定戦

吉 岡 メ | 折上佳

市 立 2 | 1 脇町 C

▽2回戦 月曜錬成会3 | 0 県青

山 田

近 藤 コ | コ 折上佳

尾形 | 米倉

少年センター、藍住婦人3 | 0 徳大

(川島)

吉 岡 メ | 楠

〇八幡 メ | 井内

B、徳大A 3 | 0 小松島少剣ク、小

勝 瀬

楠

竹本 | 川人〇

松島教員1 (本数4 | 3) 1 阿南支

(阿工)

◆第32回県高校剣道新人大会 (1月17日徳農体)

〇八幡 メ | 川人

部

香 川

▽1回戦 生光5 | 0 貞工、川島4

【同個人】

▽準決勝

(富東)

1 城東、小松島2 | 1 海南、富東

▽段外3位決定戦

徳大 A 1 | 0 小松島教員

佐 藤

5 | 0 宍喰商、城ノ内5 | 0 辻、富

木 村 コ | 豊田

▽3位決定戦

(生光)

西4 | 1 阿波、日和佐3 | 2 城南、

(富西)

小松島教員 2 | 1 藍住婦人部

富 田

脇町4 | 1 東工 | 2回戦 生光3

▽決勝

月曜錬成会 3 | 0 徳大 A

富 田

| 1 徳工、川島5 | 0 徳商、阿工3

桃 メ | 林崎

〇米倉 コ | 近藤

長 井

| 2 小松島、富東4 | 1 那賀、城ノ

(富西)

〇藤井 コ | 藤沢

松 永

内4 | 1 鳴門、富西5 | 0 徳農、城

▽初段3位決定戦

〇寺西 メ | 中本

永

北3 | 2 日和佐、市立3 | 2 脇町

井 内 メ | 阿部

【同個人】

松 永

▽準々決勝 川島4 | 1 生光、富東

(脇町)

▽二段以下3位決定戦

長 井

3 | 2 阿工、富西4 | 1 城ノ内、市

▽決勝

近 藤 コ | 河村

田 上

立5 | 1 城北

(富西)

▽徳大

(富東)

▽準決勝

吉 岡 ド | 米倉

中 本 | 藤沢

折上恭

富 東 3 | 1 川

(脇町)

▽三段以上3位決定戦

(富東)

富 西 3 | 1 市

川 人 メ | 中西

手塚 コ | 田中

折上佳

▽3位決定戦

▽決勝

(徳島支部)

(脇町)

川 島 4 | 1 市

棕 下 メ | 芝橋

▽決勝

(富東)

富 西 3 | 1 富 東

(富西)

寺西 コ | 米倉

折上佳

▽決勝

【一般団体】

▽1回戦 月曜錬成会3 | 0 文理大、

前 田

富 西 3 | 1 富 東

近藤 ドーメ 小川

○藤田 ドーメ 松永

○谷口 コー 香川

○福多 コー 鳴川

【女子】

▽1回戦 富西5-0城ノ内、海南

4-1池田、辻4-1穴喰商

▽2回戦 富西5-0城北、富東5-0

城東、日和佐3-2生光、川島4-

1鳴門、小松島3-2海南、市立5

1-0鴨商、城南4-1徳商、脇町5

1-0辻

▽準々決勝 富東4-1富

西、川島5-0日和佐、市立4-1

小松島、脇町3-2城南

▽準決勝

富東 4-0 川島

脇町 4-0 市立

▽3位決定戦

川島 4-1 市立

▽決勝

富東 5-0 脇町

○近藤 メー コ 米倉

○西岡 メー コ 篠原

○折上 コー 井内

○田上 コー 加藤

○楠 メー 川人

◆第11回県下中学校剣道新人大会

(徳武)

▽1回戦 山川2-1加茂名、坂野

4-0富田、鳴門3-1徳島、山

城3-2脇町、入田2-1阿南、石

井3-2文理、川島3-2池田、阿

南3-0半田、穴吹3-2上八万、

羽浦3-1板野、江原2-1津田、

上板2(本数勝ち)2国府、附属4

1松茂、大麻3-1北井上、城東

2(本数勝ち)2北島、牟岐2-0

宍神、南部3-1加茂谷、那賀川4

1-0川内、高浦5-0日和佐、城西

(不戦勝)平谷

▽2回戦 木頭4

1-0山川、鳴門4-0坂野、八万

5-0山城、鴨島3-0入田、宮

浜5-0石井、海南2-1川島、阿

南3-1穴吹、市場3-1羽浦、

驚敷4-1江原、附属4-1上板、

新野3-2大麻、藍住3-0城東、

相生2-0牟岐、小松島3-2南部、

高浦2-1那賀川、阿波5-0城西

▽3回戦 鳴門3-2木頭、鴨

島2-1八万、宮浜3-1海南、

阿南3-1市場、驚敷3-2附属、

藍住4-1新野、相生2(本数勝ち)

2小松島、阿波3-0高浦

▽準々決勝

阿南1-1(代表勝ち)1宮浜、

藍住3-1驚敷、阿波3-2相生

▽準決勝

阿南1-2-2 鴨島

阿波 4-1 藍住

▽決勝

阿波 3-0 阿南

秋山 1-0 天羽

○兼松 メーメ 遠藤

塩田 コー ド 喜田

○中川 メーメ 津山

○坂本 メーメ 川西

▽1回戦 木頭5-0加茂谷、城東

2-0阿南、上八万3-1山城、小

松島4-1石井、勝浦5-0上板、

穴吹2-0文理、南部3-1坂野、

市場4-1日和佐、那賀川3-0北

井上、山川3-1加茂名、阿南4

1-0富田、海南2-1入田、附属5

1-0北島、徳島(不戦勝)藍住、鴨

島4-0池田、阿波5-0城西

▽2回戦 木頭3-0城東、小松

島3-1上八万、勝浦4-1穴吹、

市場3-0南部、山川1(代表勝ち)

1那賀川、阿南2(本数勝ち)2

海南、附属5-0徳島、阿波2-1

鴨島

▽準々決勝 木頭4-1小

松島、市場3-2勝浦、阿南2

(本数勝ち)2山川、阿波3-1附属

▽準決勝

木頭 3-1 市場

阿波 3-1 阿南

▽決勝

木頭 3-1 阿波

○小藪千 コー 秋山

中田 反コー 栗栖

○前浦 コー 田島

○小藪香 コー 吉村

○廣瀬 コー 坂東

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

○小藪香 コー 吉村

◆第39回四国剣道大会

(5月24日愛媛)

▽リーグ戦 徳島5-4香川、愛媛

5-1高知、徳島6-5高知、愛媛

7-5香川、香川5(本数勝ち)5

高知、愛媛7-4徳島

▽順位 ①愛媛3勝 ②徳島(米倉、

手塚、福多、中山、河口、坂本、吉

田、相原、福井、松村、坂下、大沢、

美馬)2勝1敗 ③香川1勝2敗

④高知3敗

◆第26回全日本女子剣道選手権大会

(5月31日大阪)

▽予選リーグ

星野 メーメ 沢 辺

(群馬) (上八万中教)

沢 辺 ツーメ 大 村

川 俣 メーメ 沢 辺

【男子】

一三三、
沢辺は1分け2敗で予選落ち。

◆第26回西日本勤労者剣道大会

(6月14日高知)

▽準々決勝

徳島県警B 2 | 0 新日鉄光A

(山口)

▽準決勝

徳島県警B 2 | 1 日本運送本

社A (大阪)

▽決勝

高知県警A 1 | 0 徳島県警B

高知県警A

◆第35回全国高等学校剣道大会

(8月6~8日北海道)

第1日目

【男子】

▽個人1回戦

加藤 藤②メ | 山田 田②

(広島・広工大付) (徳島・川島)

▽同2回戦

一氏 氏②コメ | 佐藤 藤②

(鹿児島・鹿商工) (徳島・生光)

【女子】

▽団体予選リーグ

富東 4 | 1 根雨

(徳島) (鳥取)

○近藤初メメ | 松原初

(富東は2勝で決勝トナメントへ)

河野②下 | メメ荒木②

○楠木②メメ | 井沢②

○林②メド | 石倉初

富東 3 | 2 久御山

(京都)

近藤初メ | メメ奥村②

折上初 | コメニ宮②

○河野②メメ | 則元②

○楠木②コメ | 細谷②

○林②ドメ | メ千葉②

(富東は2勝で決勝トナメントへ)

第2日目

【男子】

▽予選リーグ

大安寺 4 | 1 富西

(岡山)

○粟井②コロ | メ富沢②

○木村②メ | 福井②

○則本②ドメ | 島田②

○山崎初メコ | メ福多②

○谷川② | メ湯浅②

東奥義塾 2 | 1 富西

(青森)

○二階②ドコ | 富沢②

○南②メ | 福井②

○斎藤②引き分け | 島田②

立田②引き分け | 福多②

上藤② | コ湯浅②

(富東は2勝で決勝トナメントへ)

【女子】

▽団体決勝トナメント1回戦

富東 3 | 1 埼玉栄

(徳島)

○近藤初メ | 橋本②

折上初コ | コ中島②

○河野②コメ | 鬼沢初

○楠②ココ | メ吉野②

○林②メ | コメ溝江②

▽個人1回戦

長沢②コロ | 河野②

(大分・野津) (徳島・富東)

▽同2回戦

林②メメ | 中川②

(徳島・富東) (和歌山・和歌北)

▽同3回戦

林②コ | 根本初

(千葉・宮商)

▽同4回戦

林②メメ | 大塚②

(佐賀・三養基)

第3日目

【女子】

▽団体準々決勝

前橋商 3 | 1 富東

(群馬)

○町田初引き分け | 近藤初

○田代初下 | 折上初

(富東は3年連続5度目の優勝)

○松山初コロ | 楠②

内山初 | メメ林②

▽同決勝

PL学園 2 | 2 左沢

(大阪) (山形)

(本数勝ち)

PL学園は2年ぶり2度目の優勝

【女子】

▽個人準々決勝

林②メ | 鈴木③

(徳島・富東) (神奈川・橋本)

▽同準決勝

山本②コメ | コ林②

(大阪・PL) (徳島・富東)

◆第25回四国中学校総体剣道競技

(8月8日高知)

【男子】

▽県対抗リーグ戦 ①香川3勝 ②

高知2勝1敗 ③愛媛1勝2敗 ④

徳島3敗

(香川は2年ぶり10度目の優勝)

▽学校対抗リーグ戦 ①高知(高知)

②鴨川(愛媛) 2勝1敗 ③木頭

(徳島) 1勝2敗 ④協和(香川)

3敗

(高知は3年連続5度目の優勝)

▽個人決勝

森川コ | 清藤

(愛媛・鴨川) (高知・学芸)

【女子】

▽県対抗リーグ戦 ①高知3勝 ②愛媛2勝1敗 ③香川1勝2敗 ④徳島3敗
 (高知は2年連続3度目の優勝)

▽学校対抗リーグ戦 ①木頭(徳島) 2勝1敗 ②鴨川(愛媛) 2勝1敗 ③紫雲(香川) 1勝2敗 ④中村(高知) 1勝2敗 1、2位、3、4位は勝ちポイントによる。
 (木頭は初優勝)

▽個人戦第3位 二反田 和則

◆第22回全国高等専門学校体育大会 (8月10~12日秋田)

▽個人戦第3位 二反田 和則

◆第29回全国教職員剣道大会 (8月11日岡山)

第二十九回全国教職員剣道大会は十一日、岡山市総合文化体育館で男子団体、男子個人3種目、女子個人が行われ、本県からの出場の寺西佳代子(穴吹中)が女子個人戦で初優勝した。同競技の本県勢の優勝は初めて。

二年連続優勝を狙う村上(秋田・十和田高)との決勝は、過去三年連続して村上に敗れている寺西が奮起、得意のコテを決め、一本勝ちで快勝した。

男子では個人中学の部でベスト8に入った臼木崇(木頭中わか杉寮監)が、優秀選手に選ばれた。

【女子個人】

▽準々決勝

寺西コ 白石

(徳島・穴吹中) (長崎・御厨中)

▽準決勝

寺西コ 奥田

(大阪・清友高)

▽決勝

寺西コ 村上

(秋田・十和田高)

◆第17回全国中学校選抜剣道大会 (8月22日愛知)

▽予選リーグH組

【男子団体】

▽予選リーグH組

下館北 2-1 木頭

(茨城) (徳島)

○新井メ 松岡

坂入 中野

○柴 田中

渡辺 中

(引き分け) 谷沢

谷中 (引き分け) 谷沢

木頭 5-0 湊山

○松岡メ 北堀

○中野ドメ 片岡

○田中メ 伊東

○照原メ 住田

○谷沢コ 松浦

(木頭は落選)

▽決勝

北茂安 3-1 豊橋南部

(佐賀) (愛知)

(北茂安は初優勝)

【女子団体】

▽予選リーグI組

木頭 4-1 白鳳

(徳島) (奈良)

○小藪香コ 中馬

○小藪千メ 佐藤

前浦 高田

○谷メ 家弓

○小藪美コ 丸淵

木頭 2-1 斉

(佐賀)

小藪香 引き分け 御厨

○小藪千メ 田中

前浦 引き分け 江越

○谷メ 南川

○小藪美メ 中村

(木頭は決勝トナメント進出)

▽決勝トナメント1回戦

名和 3-2 木頭

(愛知)

○新井コメ 小藪香

○小島メ 小藪千

○笹川メ 前浦

古川 谷

松永 コド 小藪美

▽決勝

楠根 4-1 和

(大阪) (愛知)

(楠根は初優勝)

◆第7回四国教職員剣道大会 (8月25日愛媛)

▽リーグ戦 愛媛5-3高知、徳島5-2香川、愛媛9-2香川、徳島5-3高知、徳島7-3愛媛、高知6-4香川

▽順位 ①徳島3勝 ②愛媛2勝1敗 ③高知1勝2敗 ④香川3敗

徳島は初優勝。

徳島 5-2 香川

○臼木メ 香川

上田メ 港

○田村メ 小林

福多コ 山下

○本田コ 氏家

○中山メ 渡辺

加藤メ 大山

○河田メ 白山

○西谷コ 都倉

○高島ドメ 小田

○高島ドメ 小田

○高島ドメ 小田

○高島ドメ 小田

○高島ドメ 小田

○高島ドメ 小田

高知 3 5 徳島

▽2回戦 徳島 3 1 群馬 馬

▽3回戦 沖繩 5 1 0 徳島

○久保 メコ 上田

○長井 初コメ 小野 ②

○鈴木 ④メ 平野 ④

○西村 上田

○松永 ②下メ 堀田 ②

○親川 ⑥メコ 四宮 ⑤

○吉田 福多

○福多 ②コメ 堀口 ②

○下地 ⑥メメ 西谷 ⑦

○藤原 本田

鳴川 ②メ 栗原 ②

○田場 ⑦コメ 柏原 ⑦

古田 中山

香川 ② 栗原 ②

○棚原 ⑦メメ 大沢 ⑧

松井 加藤

▽決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

中野 河田

【少年】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

川添 西谷

▽3回戦 沖繩 4 1 1 徳島

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

内村 沢井

○大城 ②下ド 長井 初

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

三谷 高島

○仲村 ②コメ 福松 永 ②

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

愛媛 媛 3 7 徳島

○金城 ②メコ 福多 ②

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

芝 白木

○徳嶺 ②コメ 香川 ②

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

小笠原 上田

玉城 ②コメ 鳴川 ②

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

○菅 田村

▽決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

馬越 福多

○徳嶺 ②コメ 香川 ②

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

○二宮 本田

○徳嶺 ②コメ 香川 ②

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

○渡部 中山

○徳嶺 ②コメ 香川 ②

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

○木原 加藤

○徳嶺 ②コメ 香川 ②

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

柳原 河田

○徳嶺 ②コメ 香川 ②

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

桜木 西谷

○徳嶺 ②コメ 香川 ②

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

近藤 沢井

○徳嶺 ②コメ 香川 ②

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

戸梶 高島

○徳嶺 ②コメ 香川 ②

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

◆第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第3日目

○平野 ④コメ 曾田 ⑤

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第42回国体剣道競技

【成年男子】

△決勝 沖繩 3 1 2 鹿兒島

第1日目

○西谷 ⑦メコ 小村 ⑥

編集後記

本年度全日本剣道選手権者の西川清紀先生(警視庁)を招待した。48国体に備えて、中学校剣道のレベルアップをねらったことだ。県警の近藤先生に連絡方法を調べていただき、やっと電話連絡することができた。

初めて西川先生と電話でお話した時、強化合宿の主旨を説明すると、快くお引き受けいただいた。

三月か六月に渡来する予定という件も、六月になり、徳島県の中学生は、日本一の剣道に接することができるといふ幸運に恵まれた。

「百聞は一見にしかず」という言葉がある。今回、西川先生をお招きして、模範練習をしていたのだが、本当にすばらしい剣道で理屈ぬきに、立派な剣道ですね」としか表現のしようがないほどであった。

西川先生と身近に接し、その人となりを表すエピソードを紹介しよう。

第一日目の昼。模範練習のあと休

憩。面をとって一息いれてから再度練習。中学生の代表者六名と地稽古。十分程度だったが、面をとると流れるような汗。私は本当に驚いた。日本

の剣道の最高レベルにある警視庁で毎日四、五時間も練習されている先生が、中学生相手の短時間の練習で玉のような汗を流されるとは。

先生の好きな言葉は、「一生懸命」。「真剣」だそう。なるほど中学生相手に精一杯力を出しきって下さった姿をみて納得した。

一日目の夜。西川先生を囲んでさやかな夕食会が開かれた。話もはずみ、夜遅くまで歓談した。夕食会の始まる前に、次の日の朝は、ゆっくりお休み下さいとお勧めしてあったが、夜遅くまで話しているうちに、徳島の朝稽古へぜひ参加したいとおっしゃられた。

次の日の朝。六時四十分。宿泊所の部屋まで迎えに行くと、中から剣道具を身につけた先生が出てこられた。心も体も完全にできあがっている状態で、いつでも稽古が始められ

る雰囲気だった。

「朝早くから申し訳ないですね。」と言うと、「徳島へは、自分の稽古をしにきましたから」とさわやかに言っている西川先生。超ハードスケジュールにもかかわらず、最初から最後まで一切の手ぬきなしの真剣さ。「技も心も日本一」を思い知らされた二日間であった。

三月。恒例の学校教職員の異動が発表された。新聞紙上には掲載されない講師の先生も含めて、今年、剣道連盟にとって、実に有難い配置が相ついだ。48国体に向け、特に、少年部は、中・高校の部活動の指導者が大きなウエイトを占めるが、今年、かなり思いきった異動であった。部活指導者の適正配置は、何よりも生徒にとってプラスであり、徳島県の立場からも大きなプラスである。部活動以外にも大切なことは、学校現場ではたくさんあるから、一方の都合だけでは全体が動くはずもないが、今回、このような形で異動がなされたことは、国体に向けて剣

道連盟としては、大きな前進といえよう。

剣道指導者の配置に関して強力に推進して下さった方には、学校現場での精一杯の努力・精進という形でご恩返しをしたい。

最後に、本誌発行に際してご多忙中にもかかわらず原稿の執筆等、ご協力いただいた方々に感謝の意を表します。有難うございました。

(石井 博)

発刊日	昭和六十三年四月二十九日
発行所	徳島県剣道連盟
編集	徳島県剣道連盟広報部
印刷所	グラウンド印刷